

EVANGELION

C H R O N

エヴァンゲリオン・クロニクル

20

定価 **690**円(税込)

2010/6/22

Mechanic Sheet

エヴァンゲリオン式号機 **B**

国連軍兵器

Character Sheet

青葉シゲル

Installation Sheet

NERV **C**

Timeline Sheet

命の選択を

Tactics Sheet

EVA4号機S²機関
搭載実験

Technology Sheet

EVA戦闘支援システム

Extra Sheet

用語辞典 / 企画書 / トピックス



限定
フィギュア
締切り迫る
!!!

EVANGELION

CHRONICLE

20

目次 | C O N T E N T S

Mechanic Sheet メカニックシート
エヴァンゲリオン式号機 B 01-04
国連軍兵器 23-24

Character Sheet キャラクターシート
 05-08 **青葉シゲル**

Installation Sheet インスタレーションシート
NERV C 09-12

Timeline Sheet タイムラインシート
 13-16 **命の選択を**

Tactics Sheet タクティクスシート
EVA4号機S²機関搭載実験 17-18

Technology Sheet テクノロジーシート
 19-20 **EVA戦闘支援システム**


Extra Sheet エクストラシート
用語辞典 21-22
企画書 25-28
トピックス 29-32

新世紀エヴァンゲリオン オフィシャルページ
 エヴァンゲリオンのリアルタイム情報はこちらで！

PCサイト
 ▶ <http://www.gainax.co.jp/anime/eva/>

携帯サイト ▶ <http://wpp.jp/eva/> ココからGO!

エヴァンゲリオン オフィシャルストア
 ▶ <http://www.evastore.jp/>



[発行日] 2010年6月22日
 [発行] 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
 〒104-0045
 東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル
 [発行人] 小河原和世
 [編集人] クロス中山慶子
 [チーフエディター] 安部 翠
 [印刷] 大日本印刷株式会社
 ©2010 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.
 [編集協力] 株式会社ウィーブ (石川裕人/田代 豪/大久保圭/本多らな)
 [監修] 株式会社ガイナックス
 ©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

<オリジナル版>
 [編集協力] 有限会社 メガロマニア (富田英樹/高村泰稔/渡邊洋三/
 加藤和弘/山田展寛/桑木貴章/鈴木秀治/公森直樹)
 [執筆] TRAP (西川紗矢/遠藤智子)/ぼろり春草
 [イラスト] 市川裕文/深野洋一 (M.I.C.) /射尾卓弥/かこいかずひこ
 [デザイン] ローカル・サポート・デパートメント (島田英明/角田正明)
 株式会社 インフォビジョン (河野幹哉/安川純史/田中春夫)

<新訂版>
 [編集協力] スタジオ・ハードデラックス株式会社 (伊藤桃香/米良真一)
 [デザイン] スタジオ・ハードデラックス株式会社 (松本優典)

- 書店向け注文受付センター
 (書店様からのご注文を承ります)
 ☎ 03-5212-5311
 (月~金 9:30~17:30 土日祝日を除く)
 FAX 03-5212-5312
- 読者サービスセンター
 (本誌関連の一般的な質問を承ります)
 ☎ 0570-008-109
 (月~金 10:00~18:00 土日祝日を除く)

※本商品は2007年に刊行された『エヴァンゲリオン・クロニクル』
 (発売:ソニー・マガジズ)に改訂を加えて刊行するものです。

本誌の最新情報をCheck!

PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
<http://deagostini.jp/eva/>



定期購読のご案内

週刊『エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版』は、毎週火曜日発売です(一部地域を除く)。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄の書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. 読者専用定期購読受付センターに電話またはFAXで
 ☎ 0120-300-851
 (9:00~21:00 年中無休)
 FAX 0120-834-353
 (定期購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付)
2. インターネットで
<http://deagostini.jp/eva/> (24時間受付)
 ※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
3. 定期購読申し込み用紙を郵送
 (「定期購読のお知らせ」がお手元がない場合は受注センターまでご連絡ください。)

特製バインダー発売のお知らせ

週刊『エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版』は特製バインダー4冊に収まります。エヴァンゲリオン大百科を完成させるのに不可欠なバインダー2・3巻の2冊セットを7月上旬に通常価格1,790円(税込)で発売する予定です。
 ※4巻目のバインダーは第31号でプレゼントいたします。



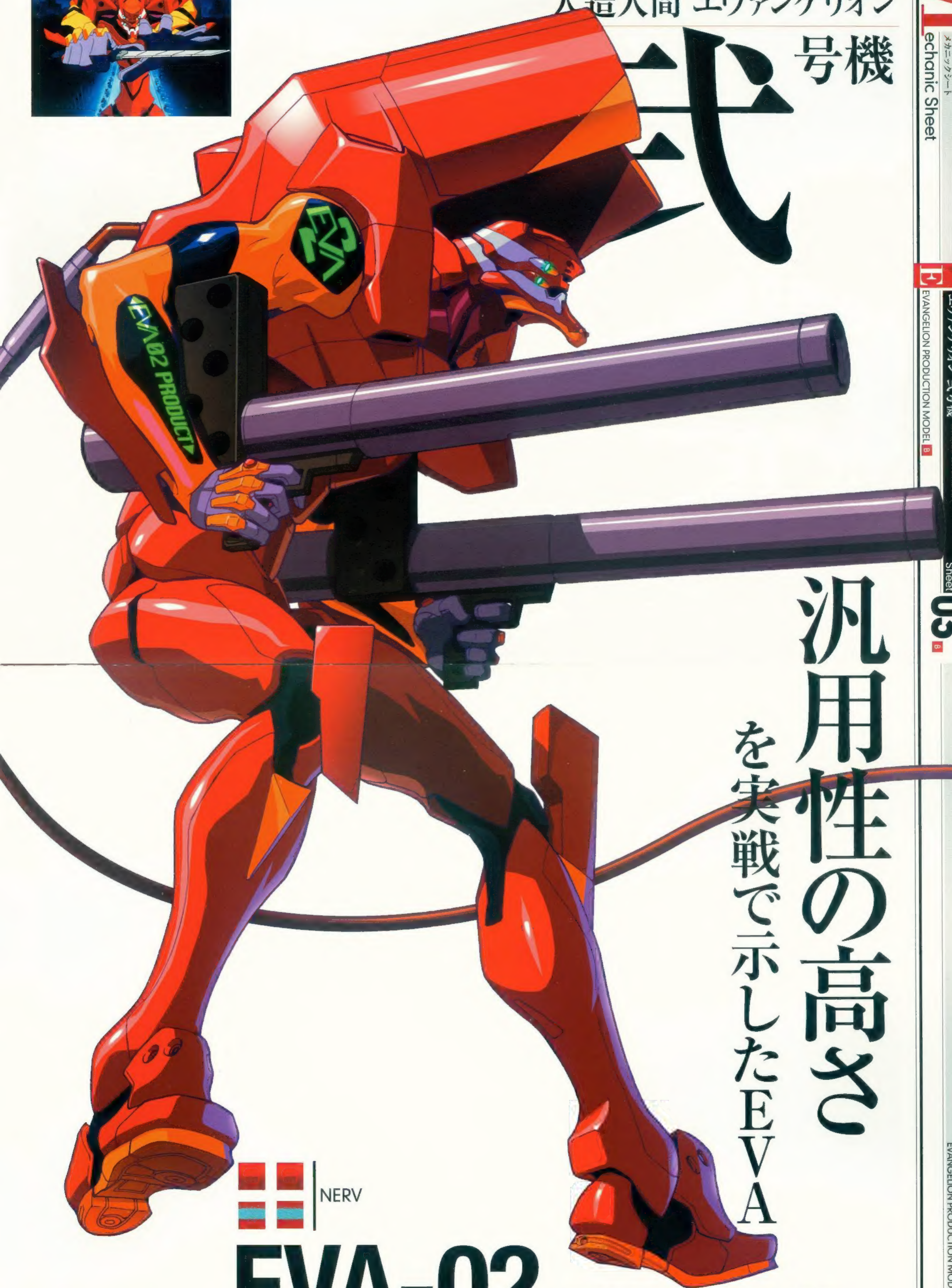
下記弊社プライバシーポリシーに同意の上、お申し込みください。【個人情報のお取り扱いについて】 1. 個人情報の利用目的 商品の発送と連絡、各種情報・資料等のご案内を利用目的とします。 2. 第三者への個人情報の提供・開示等 法令の規定に基づいて国法・行政機関等からの情報開示の要請を受けた場合を除き、第三者に個人情報を提供・開示等することはありません。 3. 個人情報の委託と管理 弊社は注文の受け付けと確定、商品の配送、クレジットカード会社への滞り支払いの処理、代金収納専門企業による売り上げ代金の収納、データの分析、カスタマーサービスなどのために必要な範囲内で保有している個人情報を他社に委託していますが、契約等により委託先を厳密に管理いたします。 4. 個人情報提供の任意性 個人情報を弊社に提供されるかどうかは、お客様の任意におまかせします。但し各申込フォームの項目に未記入部分があると手紙せがとれない場合もあります。(購入に関するお問い合わせは定期購読受付センター:0120-300-851へ) 5. 個人情報に関する請求等お問い合わせ窓口 デアゴスティーニ・ジャパンCRM部部長 電話番号:03-5309-6286 *受付時間 10:00~18:00 (土日祝日、弊社休業日を除く) *弊社ウェブサイトが個人情報保護の詳細をご案内しております。 <http://deagostini.jp/security/>





汎用人型決戦兵器
人造人間 エヴァンゲリオン

式機



汎用性の高さの を実戦で示したEVA



EVA-02 PRODUCTION MODEL

EVANGELION CHRONICLE
メカニクシート
Mechanic Sheet

EVANGELION PRODUCTION MODEL
エヴァンゲリオン 式機
EVANGELION PRODUCTION MODEL B

Sheet
03

EVANGELION CHRONICLE
メカニクシート
EVANGELION PRODUCTION MODEL B

適格者のシンクロ率に 左右されたEVA

EVA初号機のずば抜けた戦果が“暴走”に依る反面、EVA弐号機の戦果は、機体の性能以上にそれを駆る操縦者の非凡なセンスに依るところが大きい。それ故、シンクロ率の低下は戦闘に直接影響を及ぼしてしまい、弐号機の連敗が続いてしまう。

使徒との交戦記録

- 第3使徒サキエル
交戦せず
- 第4使徒シャムシエル
交戦せず
- 第5使徒ラミエル
交戦せず
- 第6使徒ガギエル
国連軍との連携で殲滅
- 第7使徒イスラフェル
一旦敗北。再戦後に殲滅
- 第8使徒サンダルフォン
捕獲ののち殲滅
- 第9使徒マトリエル
防御担当
- 第10使徒サハクィエル
チームプレイにて殲滅
- 第11使徒イロウル
交戦せず
- 第12使徒レリエル
交戦後退却
- 第13使徒バルディエル
敗北
- 第14使徒ゼルエル
敗北
- 第15使徒アラエル
敗北
- 第16使徒アルミサエル
交戦せず退却
- 第17使徒タブリス
使徒に操られ初号機に敗北

DATA

機体: EVA-02 PRODUCTION MODEL

弐号機

搭乗者: 2nd Children

惣流・アスカ・ラングレー

主武装: WEAPON

プログレッシブ・ナイフ (改)
ソニックグレイブ
スマッシュ・ホーク 等

機体配色: COLOR



もう二度と 負けらんないのよ、この私は!!

(惣流・アスカ・ラングレー)



前面 FRONT



背面 BACK



側面 SIDE

関連事項

- 渚カヲル
- 惣流・アスカ・ラングレー
- 惣流・キョウコ・ツェッペリン
- 碇伊東沖遭遇戦



5番目の適格者。シンクロ率低下によりEVAを操縦できなくなったアスカの代わりとして、ゼーレが送り込んできた少年。



式号機の交戦記録

量産を前提にした機体だけに完成度が高く、暴走など制御不能に陥ることのない安定した性能を発揮し、操縦者の能力もあって5体の使徒殲滅に貢献している。しかし、第13使徒戦以降は連敗を重ねてしまう。

第6使徒ガギエル戦

式号機の輸送中にガギエルと遭遇、水中戦を行なう。使徒口内に捕らわれるも、アスカと同乗したシンジの一念は高いシンクロ率を発揮、ミサト提案の零距离射撃作戦を成功に導く。



使徒の口をこじ開け、戦艦の突入を手助けした。

第7使徒イスラフェル戦

初号機と初の共同戦線。初戦で先手を打ちソニックグレイブでイスラフェルを両断するが、分離した同使徒に敗北。その後、国連軍はN参号作戦で使徒の足止めを行なう。その間6日という猶予でアスカとシンジは音楽に合わせたユニゾン攻撃をマスター。再戦では、使徒のコアへ二点同時過重攻撃を決め、殲滅に成功する。



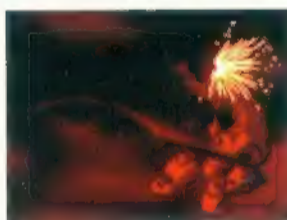
分裂したイスラフェル乙の攻撃により、初号機の敗北した20秒後に活動停止。戦闘の過程は不明だが、プザマな敗北を見せる。

初号機とのユニゾン攻撃が決まり殲滅に成功する。しかし、最後に同機がタイミングを外したため着地を失敗、プザマな醜態をさらす。



第8使徒サンダルフォン戦

成体前の使徒を捕獲するためD型装備で火口に落ちるも、捕獲後急速に羽化した使徒と戦闘となる。高温高圧下に耐える強固な体の敵に対し、熱膨張を利用して殲滅した。



プログ・ナイフの効かない使徒に知恵で打ち勝つ。

第9使徒マトリエル戦

EVA3体のチームプレイにおいてディフェンスを担当。マトリエルのA.T.フィールドを中和しつつ溶解液を防御、零号機から初号機へパレットガンが渡される時間を稼いだ。



A.T.フィールド中和のため攻撃を直接受ける。

第10使徒サハクィエル戦

自らを質量爆弾と化して落下してくるサハクィエルを受け止めるため、零号機とはほぼ同時に使徒の落下地点に急行。A.T.フィールドで使徒を支えつつコアを狙い殲滅する。



プログ・ナイフで使徒に止めを刺す役割を果たす。

第12使徒レリエル戦

バックアップ担当。レリエルのディラックの海に飲まれそうになるが、影の危険性に気づき事なきを得る。退却後、初号機救出に従事するも同機は使徒を倒し自力脱出した。



スマッシュ・ホークで攻撃の機会を窺う式号機。

第13使徒バルディエル戦

バズーカで武装し、野辺山にてバルディエルを待ち伏せる。使徒に乗っ取られた3号機の操縦者がトウジだとシンジが知らないことに驚いた瞬間、使徒の攻撃を受け敗北。



隙を付かれたためか、一瞬で活動不能にされた。

第14使徒ゼルエル戦

ジオフロントに侵入したゼルエルを、パレットガン、ハンドバズーカといった火器で迎撃。しかし全く効果がなく、使徒の攻撃で両腕、次いで頭部を切断されてしまう。



正面切った戦闘で完膚なきまでに敗北した式号機。

第15使徒アラエル戦

衛星軌道に出現したアラエル。式号機は零号機のバックアップを命じられるが、アスカは独断でオフェンスを担当する。しかし攻撃は届かず使徒からの精神攻撃によってアスカの心はズタズタにされるが、彼女のプライドは退却を許さない。結果、式号機は活動停止、使徒は零号機が用いたロンギヌスの槍で殲滅される。



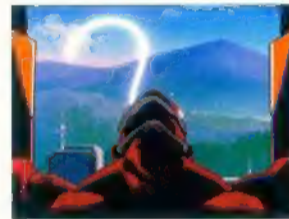
ボジトロン20Xライフルでは大気圏外の使徒に攻撃が届かない。反撃手段も防御手段もなく、式号機は使徒の精神攻撃を受け続ける。

可視波長のエネルギー波による使徒の精神攻撃は、アスカの心の奥まで暴き、EVAとシンクロできなくなるほどのダメージを与えた。



第16使徒アルミサエル戦

零号機の危機に際して出撃命令が下った待機中の式号機。しかし、シンクロ率が2ケタを切ったアスカはもはやEVAを動かさず、アルミサエルとは戦わずして戦場を去った。



動けない式号機は、使徒と戦うことなく退却する。

第17使徒タブリス戦

シンクロ率の低下によりEVAを動かせなくなったアスカに替わり、式号機の操縦者として派遣されたフィスチルドレン。その正体は使徒であり、同化された式号機はセントラルドグマの装甲隔壁を破壊しながら最深部へと進む。途中、追ってきた初号機とプログ・ナイフで渡り合うが、同機によって破壊される。



アスカの代わりとして式号機の専属操縦者となった渚カヲル。コアの変更なしで同機とシンクロするという「ありえない」能力を持つ。

タブリスに操られ初号機に襲いかかる式号機。使徒がアダムと接触するまでの足止めとして使われ、初号機によって破壊された。



特記事項

EVAシリーズとの戦闘

使徒戦においてはEVAの性能を十分に発揮できなかった式号機。精神耗弱から復帰したアスカは同機の中に「因」を感じると同時に、「A.T.フィールドの意味」を知ることによってその力を十二分に使いこなす。そして、NERV本部の制圧に投入されたEVAシリーズに対し、圧倒的な力でねじ伏せていくが……。



EVAシリーズを圧倒した式号機であったが、A.T.フィールドを貫くロンギヌスの槍のレプリカには無力であった。

EVA量産機との交戦記録

3分半ほどの活動時間でEVAシリーズ9体を相手取ることになった式号機は、9号機、11号機、7号機、6号機、12号機、8号機、10号機、5号機、13号機の順に居っていく。しかし、残り数秒でロンギヌスの槍のレプリカを頭部に受け、内蔵電源が終了。再生した量産機によって蹂躪されてしまうが、実質は式号機の圧勝だったといえる。なお、右図は量産機の損傷部位。



5号機



9号機

↑頭部潰される。背骨が折られ、血が噴き出す



6号機



10号機

↑ニードルが刺さっている

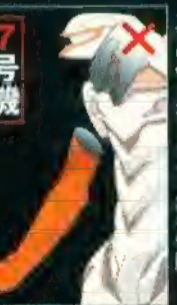


7号機



11号機

↑プログ・ナイフの刃が刺さっている



8号機



12号機

↑腹部で上下に切断



13号機



13号機

↑胸に穴があいてコアをわしづかみにされる



中央作戦
司令室の
一翼を担う



NERV

青葉シゲル

SHIGERU AOBA

長髪の
リアリスト



個人情報

名前	青葉シゲル
年齢	不明
国籍	日本
生年月日	A.D.?/5/5
血液型	A型
所属	NERV/中央作戦司令室付

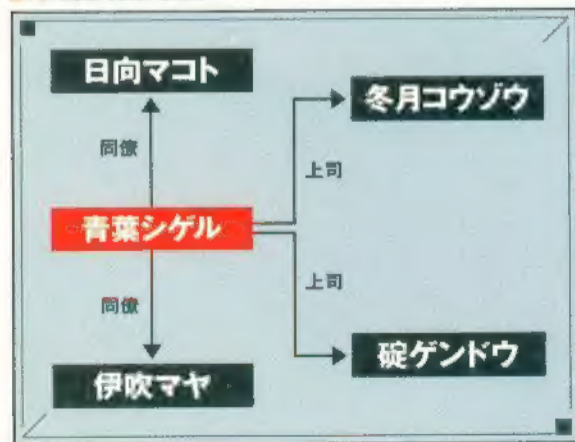
特務機関NERV本部において、中央作戦室付オペレーターとして通信や情報分析を主に担当する青年、それが青葉シゲルである。その階級としては二尉であり、これは同じくオペレーター業務を務めている日向マコト、伊吹マヤらと同階級である。ただ、それぞれ所属課などは異なっており、3人の中で正しく中央作戦室付オペレーターという肩書きを持つものはシゲルただひとりとなっている。

彼のプライベートな部分のはっきりとわかる場面は数少ない。シゲルが自らについて語ることは全くと言っていいほどないし、同僚たちとも仕事以外の部分で交流している様子は見られなかった。彼の私的な面でわかることといえば、精々、音楽を好むという部分くらいのものである。

ただ、仕事面については、やや軽そうに見える外見に反して、大変真面目に取り組んでいるようである。不測の事態においては激することや慌てることも多いものの、最終的には正確にオペレーティング業務をまっとうしている。また、第11使徒イロウルがNERV本部内に侵入した際などはその異変にいち早く気づいていた。さすがにその正体が使徒であるとは気づかなかったものの、直感と注意力のほうもなかなかのものであるようだ。

マヤやマコトのようにプログラミングや作戦立案などの能力に特化しているわけではないが、情報分析のスペシャリストとしての能力を持つシゲル。地味な裏方ではあるが、使徒という未知の存在に対抗する上で必要不可欠な人材であるといえるだろう。

人物相関図



関連事項

- 中央作戦司令室
- 碓ゲンドウ
- 冬月コウゾウ
- 日向マコト
- 伊吹マヤ



NERV本部の中核施設。使徒と戦うため作戦の指示や運搬、情報分析などを行なう。オペレーター席が青葉シゲルの定位置。

表情 / 制服



→シゲルの外見で印象的なのは、やはりその長髪だろう。NERVには制服はあるものの、頭髪についての規定はないようだ。



第11使徒イロウルを殲滅した際の、両手を挙げて喜ぶシゲル。口数は多くないが、素直な感情表現をすることもある。



→息を呑むような表情。使徒との戦闘を、かたずをのんで見守る際に見受けられる。



↑こちらもまた、使徒との戦闘におけるアナウンスを行なう際によく見られる驚きの表情だ。しかし、冷静さは失われてはいない。

→少々珍しい、他人をからがっているかのような表情。垂れ気味の目の影響もあってか、軽薄なイメージが強い笑顔である。



正面

→NERVスタッフの一般的な制服。着崩すことなく、特記すべきところは見当たらない。



私服が見られるのは、NERV大停電の朝の出勤時くらいのものである。それ以外にはほぼ制服で過ごしている場面しか見られない。

青葉シゲル

という存在



←あまり周囲の出来事に積極的な感情を示さないシゲルだが、まれにこのような強い意志をにじませる表情を見せることもある。



←唯一見ることの出来るシゲルの私服は色合い、デザイン共にかなりシンプルなもの。ギターケースにも無駄な飾りなどは見られず、彼の好みを感じ取ることができる。



シゲルという人間はリアリストである。使徒殲滅後のNERVが組織解体されるだろうと冷静に見通しており、戦略自衛隊がNERV本部の直接占拠を目論んだ際に、現実から目を背け、銃を撃つことを拒んだマヤに対し「撃たなきゃ死ぬぞ!」と一喝している。直接的な戦闘を体験してこなかった人間としては、マヤの反応のほうが恐らくは一般的であろう。特殊な状況下で冷静な判断が出来るのは、現実を見据えているからに他ならない。人類の補完が始まった際、マヤがシゲルにすぎりながら自分たちの正しさを問うていた際に、「わかるもんか」と言い捨てていたことも印象深い。また、少々皮肉屋な部分も持ち合わせているようだ。マヤがMAGIシステムにより市政が行なわれていることを「科学万能の時代」と称したのに対し、シゲルは「古くさい台詞」と馬鹿にするかのような口調で返していた。

一見冷たい性質を持つ人間のようにであるが、こういった冷静さは、情報分析を担う人間にとっては欠かせない資質ではないだろうか。



周囲に聞こえなければならぬものなので当然なのだが、シゲルはアナウンス時にいつも叫んでいるかのようなイメージがある。しかし、彼の持つ性質は冷静なもので、どちらかというとそのイメージとは逆のものである。



第10使徒サハキエル殲滅作戦の際、退避するよう勧告したミサトに対し、シゲルは「これも仕事ですから」とだけ返している。

前述の通り、業務に対するシゲルの姿勢は大変真面目なものである。与えられた仕事に対しては、決して手を抜くようなことはないし、彼が行なうオペレーティング業務やアナウンスなどについては、特記すべきことが思い当たらない程に的確なものである。また、彼の判断や分析が原因となって問題が起きたことなどは無い。逆に言えば、優秀であるが故にあまり目立つことはないということである。しかし、彼のような存在はNERVにとって決して欠かせない。優秀な人材というものは、表立った部分だけではなく影で業務を支えるという部分でも必要なものであり、組織の屋台骨ともいえよう。

NERV

スタッフ

としての姿勢

中央作戦室付オペレーターであるシゲル。使徒やEVAのモニタリング及び状況のアナウンスを同僚のマコトやマヤと分担して行なうほか、第3新東京市の迎撃システム及び本部施設のモニタリングもこなす。

本来の職務である情報分析において、観測された総合的な情報をMAGIのサポートを受けて分析且つ取捨選択していたと考えられる。また、それをEVA及び使徒の技術的情報ならマヤ、戦術的情報はマコトというように、各専任者に対して情報のフィードバックも行なっていると思われる。また、彼の机だけ回線が4つ設けてあり、日本政府や人類補完委員会などへの通達等、外部との連絡業務も担当。



第13使徒バルディエルが、ダミーシステムを起動した初号機により沈黙した際、発令所内の皆が凄惨さに呆然とする中、沈黙を破って使徒殲滅を報告したのはシゲルだった。

補完が行なわれ皆がL.C.L.と化していく直前まで、シゲルは発令所においてオペレーティング業務に従事していた。この事実だけでも、仕事に対する真摯さが見てとれるというものである。



中央作戦

司令室

における役割

同僚 たち との関係



仕事の上では、特にマコトと息の合ったところを見せている。年齢も近く同性のため、やりやすいのかもしれない。

作戦司令室の中樞を為すオペレーター仲間として、同僚のマコトやマヤとは良好な関係にあるようだ。全ての使徒を殲滅したあと、3人がNERVの今後の動向について話している場面が見受けられるものの、私的な面においての関係性は描かれていない。待機任務中でもそれぞれが別のことに没頭し、3人で一緒に談笑する場面は見られなかった。しかしながら、逆にプライベートな関係が稀薄だからこそ、仕事上の関係が良好に保たれているのかもしれない。

ただ、戦略自衛隊での一件を見ると、少々夢見がちな面を持つマヤと、リアリストであるシゲルとは、どこか相容れない部分があるのではなかろうか。



第87タンパク壁の異変に気づいたときなどは、冬月が青葉に指示を下していた。冬月が二尉以下の人間と直接的に交流を取ることは珍しい。



たとえばガラガラの電車内でも、冬月やリツコら上司と一緒にのときは座席に座らない。上下関係にはかなり気を使っているようだ。

シゲルのNERV内における所属上の直属の上司は、マヤやマコトらのようにはっきりとは辿れない。ただ、中央作戦室付オペレーターという位置付けや、第87タンパク壁の異変を冬月に報告し、直接的な指示を受けていることなどから、立場上は冬月が彼の直属の上司であると推測されるが定かではない。出勤前に出会った副司令相手には多少緊張気味に挨拶しており、直属の上司であっても砕けた関係は期待できないであろう。彼にとって同僚も上司も特に仲の良い人物がいるわけでもなく、ビジネスライクながらも仕事において良好な関係を築いているようだ。

上司 たち との関係

最後の 瞬間 に見たもの



どのような原因にせよ、恐怖を抱えたまま強引に補完されていた青葉は、幸せのうちに補完を受け入れた人間たちと比較して、少しばかり不幸だったといえるだろう。

EVA初号機による人類補完が行なわれた際、シゲルの状況は少々特殊であった。周囲の人間が皆、それぞれが好意を寄せる人間のビジョンを見て、歓喜や安らぎの中でL.C.L.化していった中、シゲルだけは大勢の綾波レイのビジョンに囲まれ、怯えながらL.C.L.と化す。これは純粋に想う相手がいなかったからとも考えられるが、シゲルのリアリストの部分が発現したものと推測できる。つまり、最後まで現実を見つめていたが故、異常な事態にただただ恐怖し、怯えていただけなのかもしれない。

どちらにせよシゲルは、恐怖の中で補完を受け入れることになってしまった人間なのである。

特記事項

音楽に傾倒する意味

シゲルが持つ趣味の中で、唯一明らかとなっている部分といえばギターである。シゲルが音楽に傾倒しているということは、発令所内で休憩時間中にギターを弾く真似をしていたことや、勤務先にギターを持って行くということからも間違いのない事実であろう。実際にギターを演奏しているところは見られないが、その傾倒ぶりから、それなりに長く音楽に触れているものと推測される。NERV本部で忙しく殺伐とした日々を送る中、音楽というものは彼の心を休めてくれる存在となっているのだろう。また、リアリストである彼が唯一、ロマンティズムを見せる部分であるとも考えられる。どちらにせよ、ギターがシゲルにとって重要なものであることは確かだ。



ギターを背負う姿もなかなか様になっている。「The Player」などの音楽誌も何冊か愛読しているようで、その熱意の深さが窺える。

シゲルは出勤する際にもギターを持参している。休憩時間中に練習をするつもりなのかもしれない。



弾く真似だけとはいえ、その手つきはかなり慣れたものだ。実際はそれなりの腕前を持つことが推測される。

Illustration by Takuya Ito



EVAが待機格納される施設——ケイジ。この施設が「檻」を意味する呼び名を持つことは、NERV自身が、未知の部分が多いEVAに対して畏怖を感じていたことの顕れとも見て取れる。

EVA関連施設

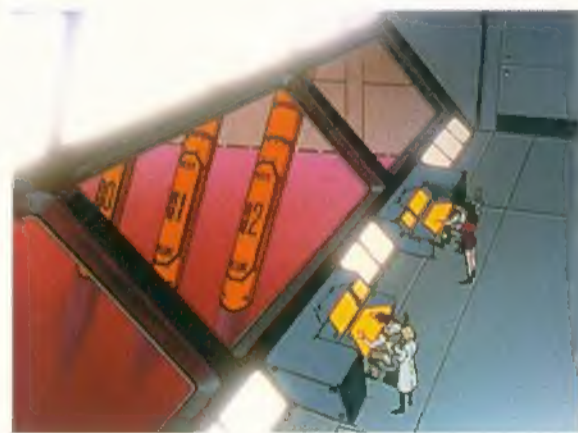
施設の建造目的とその運用

秘密結社ゼーレの後ろ盾を受けて、当時の人類の技術では再現不可能なオーバーテクノロジーを追い求めたゲヒルン。彼らはヒトの持つ知恵を駆使し、貪欲な好奇心によって超技術に手を伸ばした。その結果掴んだものの一部がスーパーコンピュータMAGIシステムであり、人造人間エヴァンゲリオンである。この知識の探求は、ゼーレにとって単なる通過点であり、その先にある人類補完計画を見据えた土台づくりであった。MAGIの完成による研究のさらなる段階への移行のため、調査や研究を主な目的としていたゲヒルンは即時解体され、計画の実行機関としてNERVが結成される。

調査組織であるゲヒルンを前身に持つ特務機関NERV。引き継いだその本部施設は、人工進化研究所を隠れ蓑にしていた時代より建築が進められてきたものである。当初よりE計画(別名アダム再生計画)に着手していたゲヒルンは、セカンドインパクト直後、あるいは以前よりEVAの開発研究を行っていた。そのためEVAに関する施設は研究所から建造

設備、実験場までも備えていたのは当然であろう。さらにいうならば、EVAを運用するための設備までも完備している。これは、NERV本部のある箱根においてEVAを実戦投入するという事実に他ならない。最初から、この場所でEVAを運用しなければならないという確たる根拠を持った上で本部施設を築き、第3新東京市を含めたEVAの関連施設と運用システムを構築していったものと考えられよう。

E計画の目的はアダムのコピーを造り出すことにある。それが「神の雛形」たるエヴァンゲリオン零号機であり、その完成までに多くの試行錯誤が成された。その過程においては事故もあり、EVAは必ずしも安全な兵器ではない(むしろ危険極まりない)ことが十分証明されていたのだろう。EVAの待機場所は格納庫ではなく「ケイジ(檻)」と呼ばれ、発進する前は何重もの拘束具によって頑丈に固定されている。さらに実験場にはベークライトなどEVAを制止する手段が用意されており、一応の完成を見た2015年時をもってしてもコントロールは不十分。これを克服するためにも、EVAのさらなる研究を行なうための施設は必要であり、完全に制御できるときまで、ケイジが格納庫と呼ばれる日は来ないだろう。



関連事項 RELATED TOPICS

- EVA
- NERV
- ゲヒルン

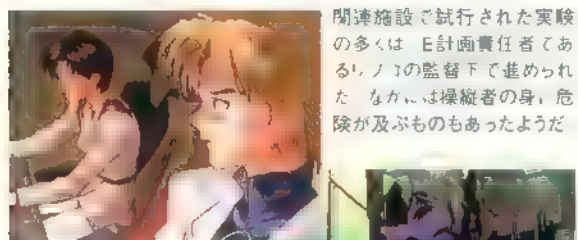


正式名称は汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオン。使徒に対抗しうる人類唯一の戦力と言われている。

**試験場、実験場をはじめとする
EVA関連施設と実験**

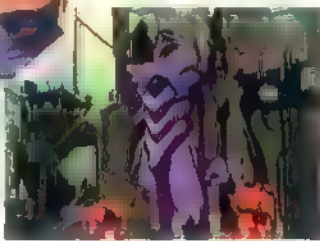
「使徒に対抗しうる人類唯一の戦力」と言われているEVA。その開発計画を押し進めてきたNERVは第3新東京市直下にある本部内において、当然ながらEVAの運用を最優先とする施設の建造を進めてきた。これらの施設は各種試験場や実験場などの研究に用いる設備と、ケイジやハンガーなど、EVAの運用に関する設備に大別される。これらの各施設については、EVA自体と同様にゲヒルンの時代から計画的に建造が進められていたとも考えられる。

使徒の襲来後は、EVAの安定した制御と性能の向上は急務となる。しかしながら、EVAは特異な兵器であるが故、あらゆる事態に前例はなく試行錯誤の段階にある。そのため様々な試験や運用を繰り返し試すことで最善を探り、EVAと適格者をより良い状態にしていくためにも関連施設は不可欠なのだ。



関連施設で試行された実験の多くは「E計画」責任者であるレイの監督下で進められた。なかには操縦者の身、危険が及ぶものもあったようだ。

巨大な体躯をうしろから固定する形の輸送台に乗せられケイジ内に収められる。なお初号機は第7ケイジに待機する機会が多い。

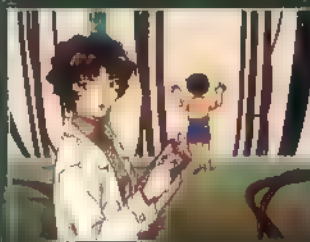


特記事項

ゲヒルンにおける実験について

ゲヒルン時代にゲヒルンにより失われた未知の存在、アダム。それをコピーすることや、新たに人造人間エヴァのプロジェクトを開始する計画——「E計画」。その計画の進行過程においては、様々なEVA関連の実験が行なわれたと見られる。そのなかでも特に顕著的であり、関係者たちの記憶に深く刻み込まれたであろう実験がEVAと被験者の「接触実験」である。

NERVの前身、ゲヒルンが行った接触実験で、初号機との接触実験の被験者となったレイが消失、零号機との接触実験の被験者となった碓氷・キョウジ・アスカは精神崩壊を起こした際、自殺を遂げた。この事例もまた、EVAが未知の存在で、そのことを顕著に物語る出来事といえるだろう。



初号機との接触実験、碓氷・キョウジも、碓氷・レイも、接触実験の場に居合わせた。ユイを救出するための特殊バークライト計画なども立案されていたものの、結果、レイは精神崩壊した。



スズガの制御であるレイも、ユイと同時期に接触実験の犠牲者となった。精神崩壊を起こしたキョウジは、碓氷・アスカを救出することすらできなかった。

**ゲヒルンとNERVにおける
EVA関連の実験と実験施設**

自らが開発したものとはいえ、EVAには未知の部分が非常に多いため、使徒襲来の直中であっても、NERV本部を始めとするNERV関連施設では様々な実験、試験が試行されている。EVA関連の実験は当然ながら公にはなっていないため、その詳細についても不明である。ただ、起動実験、機体相互交換試験、機体運動試験、オートパイロット実験、シンクロテスト/ハーモニクステストといったものについては、試行された事実や、試験、実験の概要が確認されている。

なお、「E計画」と呼ばれるEVA開発計画は、2015年においても進行中である。各実験場で行なわれた様々な試験と実験は「計画進行」にあたり、有益な情報を収集するための場でもあったと考えられる。機体運動試験、シンクロテスト/ハーモニクステストといった一部の試行が定期的に行なわれた背景には、様々な思惑も絡んでいたようだ。



使用する実験施設は実験内容ごとに異なっている。こういった点からも、EVAの実験、試験用の施設が非常に充実していたことが窺える。

EVA本体を用いる実験には暴走の危険がともなっていた。さらにゲヒルンが行った接触実験においては、貴重な人材が失われている。

NERV内には様々なEVA関連施設が存在する。複数建造された試験場、実験場での試行は「E計画」へとフィードバックされる。

EVA関連の主な試験及び実験

→起動実験

EVAを運用するにあたり、実際に搭乗する適格者とシンクロし、正常に起動するかを測定する実験。主に使用される実験場は第2実験場。各支部にも同様の施設があるようだ。

→機体相互交換試験

零号機と初号機、その専属操縦者で行なわれた実験。通常は機体ごとに決まっているEVAの専属操縦者を入れ替え、相互交換が可能かを試す実験。使用される実験場は不明。

→機体運動試験

EVAの専属操縦者が定期的に行なっている搭乗テスト。シンクロ率の計測を行ない、EVAシステム開発などの資料を収集するための試験と考えられる。第7実験場などが用いられている。

→オートパイロット実験

EVAの各パイロットがプラグスーツの補助なしで神経接続した際のデータ採取。EVAの模擬体にシミュレーションプラグを挿入して行なわれた。使用される実験場は不明。

→シンクロテスト/ハーモニクステスト

EVAと操縦者のシンクロ率、ハーモニクス値を計測するテスト。主に現状の把握と、それぞれの値の向上を狙ったもの。第7実験場などが用いられるものと推察される。

→接触実験

開発中のEVAを用いて行なわれた、EVAと被験者との何らかの実験。被験者は消失、または精神崩壊を起こした。なお、使用された施設はNERVの前身、ゲヒルンのものだった。

●主なEVA実験施設

■第3実験場

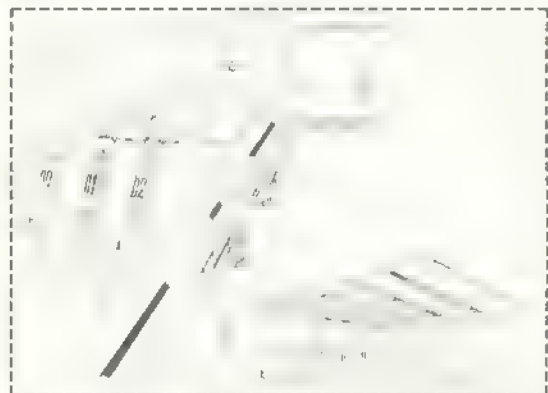
NERV内には様々なEVA関連の実験施設が設けられており、第3実験場もそのうちのひとつである。まっすぐに伸びた長い通路からは、相応の広さをもった実験室であろうことが窺える。実際にEVA関連の実験に使われた事例は確認されていないが、このような施設がNERV内に複数存在したであろうことは想像に難くない。



↑第3実験場・通路

■第7実験場

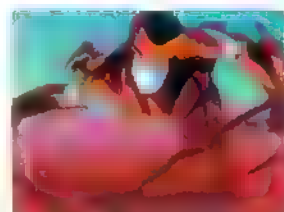
機体運動試験、シンクロテスト/ハーモニクステスト(並行して行なわれている可能性もある)を行なうための実験場。被験者は施設内の「テストプラグ」と呼ばれるプラグに搭乗。その内部には、L.C.L.が注入されるなど、実際にEVAに搭乗した際と近い条件下で実験が行なわれる。各種資料を収集するための実験施設と考えられる。



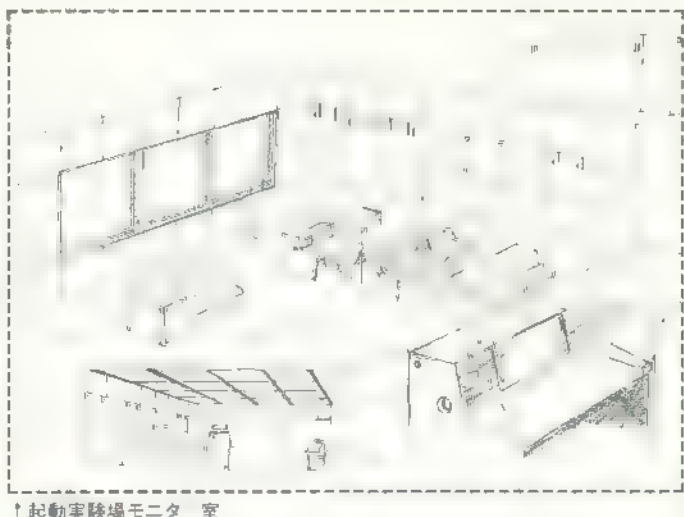
↑第7実験場・管制室

■起動実験場

第2実験場と同一の実験場と思われる。ここでは綾波レイによる零号機起動実験が行なわれるも失敗し、零号機は暴走。レイも重傷を負った。しかしその後、レイの回復と同時に再起動実験が行なわれている。この実験場内には零号機が収まり、ある程度は動けるだけの大きさをもつ実験施設だった。なお、碓氷シンジとEVA初号機に関しては、同実験は行なわなかった。



起動実験が失敗し、暴走した零号機。実験場内には特殊バークライトが注入され、零号機は完全に沈黙した。



↑起動実験場モニター室

EVAと関連装備のために作られた 様々な施設と装置

兵器は稼働と維持という運用システム全般を含めて初めて兵器と成り得る。いくら兵器自体の性能が高くても、それを常に維持して運用できなければ兵器として成り立たない。

EVAという唯一無二の兵器は、当然ながら運用するための施設や装置も専用のものを必要とし、収容する場所ひとつ取っても、他に類を見ない特殊な設備を持つ。また、第3新東京市と連動した輸送移動システムを備えており、戦術レベルの運用に対応できる施設も保有。これら設備は全てEVAだけの専用施設であり、NERVだけの特殊施設である。

なお、兵器の運用には定期的なメンテナンスが欠かせない。特にEVAは生体部品を主としているため、維持に関してはデリケートな面を持つであろう。これにより専用の設備と技術スタッフの存在が不可欠であり、莫大な運用費がかかる。



ケイジでのメンテナンス及び修理は独特。技術スタッフが潜って作業を行っており、人工人間であるEVAという兵器の特殊性が際立つ。

EVAの武器は第3新東京市の兵装ビルに格納されているほか、本部内のハンガーに用意されている。また、規格外の兵装は格納庫、置かれる模様。



追加報告

拘束に重きを置くケイジ

EVAはケイジによって機重にも厳重に動きを封じられている。アンビカル・ブリッジ内のEVAは、狭いボックス内に閉じこめられているかのようだ。しかしこれは間違った印象ではないだろう。事実、EVAは常に暴走の危険を孕む。そのため待機中は大げさなほどのシロモノによって拘束されている。それは輸送台兼拘束具がアンビカル・ブリッジに至るまで、様々な固定装置が用いられており、単なる格納庫ではなく完全に「檻」として機能していることから理解できよう。拘束の解除に時間がかかるという運用上の犠牲があるとしても、EVAの拘束が優先されている。



何重ものロックボルトによって拘束されているケイジ内のEVA。電気がなくても、暴走の可能性は無くはない。

号機起動実験が行われた後代の地下にある第2実験場。無人ケイジが仮設され、機重は地上から搬入された。



EVAの装甲は鎧ではなく、その力を抑え込むための重石の塊であり、ヒトの手で制御するための重石の塊である。

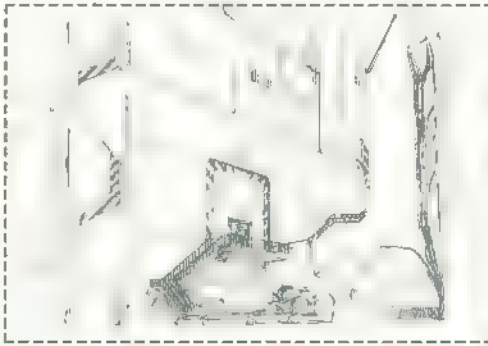
ケイジはEVA暴走時の備えとして格納庫兼拘束施設となっている。NERV本部と第3新東京市はEVAの運用に関して密接な繋がりをもち、本部内で収容、調整されたEVAは、有事に輸送設備にて第3新東京市へ送られ、戦闘支援システムのバックアップを受け機重を行なう。

●EVA関連の施設及び装置

■ケイジ

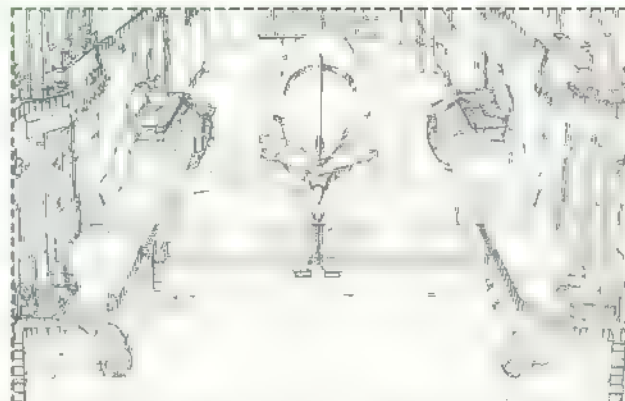
EVAの格納施設。既存の格納庫とは全く異なる造りで、EVAの係留のほかメンテナンスなどが行なわれる。ケイジ内には赤い溶液が満たされ、待機中のEVA各機は、輸送台兼拘束具だけでなく左右の第1、第2拘束具と1~15番までの安全装置によってアンビカル・ブリッジに固定されている。

なお、ケイジは複数あり、第7ケイジがよく使われているようだ。ほかにも第15使徒アラエル戦後に式号機が回収された第2ケイジ、初号機の第3次冷却が行われた第6ケイジの使用が確認されている。

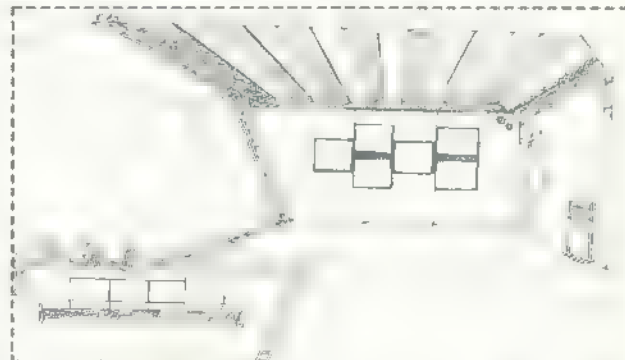


↑CLと推測される赤い溶液が満たされたケイジ内は、ボルトを用いて移動できる。

→ケイジ直轄制御室の内部。コンソールは中央作戦司令室と同じシステムで、壁には複数の監視モニターが備わっている。



↑ケイジ内のEVA。通常はケイジ内に赤い溶液が満たされ、待機中のEVAが浸るように収容されている。発進の際には液体が抜かれる。



■輸送台兼拘束具

リニアレールによってEVAを高速で移動させるためのガントリーリフトであり、アンビカル・ブリッジでケイジに固定するための拘束具の機能も果たす。第3新東京市やジオフロント各所に送るだけでなく、本部施設内の別ケイジや実験場などへ搬送する際にも利用されていると考えられる。拘束具としては最終安全装置を兼ねており、中央作戦司令室からの指示でロックが解除されるものと思われる。



↑肩部パーツと腕のブレード状パーツ部分によって固定されており、最終安全装置が解除されることでEVAはリフトオフが可能となる。



←最終安全装置だけのガントリーリフト。底部にはアンビカル・ケーブルが通る穴が開けてある。

→ガントリーリフトの背後にあるのは、第3新東京市などの射出口へ移動するリニアレールとジョイントする台車部分。

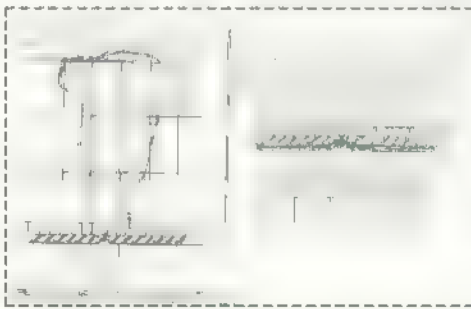
■ハンガー

EVAの専用兵装などを格納してある施設。主に開発中の兵装や、第3新東京市の兵装ビルに収納できない規格外のモデルなどが置いてある倉庫のような場所である。

基本的にEVAが入れる広さを確保してあるようで、兵装を直接持ち出すことが可能な造りを持つ。また、兵装の組立や加工スペースとしても使われていると考えられる。



→武器の形状に合わせて加工された壁に埋め込まれようとして格納されている専用ハンガーもあるようだ。



→ひびつた空間を持つ広大な第8格納庫。EVA専用耐熱光防護兵器が無造作に立てかけてあった。

E計画の推進と EVA関連施設の意義

南極大陸の葛城調査隊から引き上げたと考えられるアダムとされる巨人の実験データは、ゲヒルン及びNERVでのE計画を大いに推し進めたことだろう。その一方、アダムのコピーであるEVAも十分に危険な代物だと認識されていたはずである。ただ、人類にはEVAを利用せずにはいられない理由——使徒の襲来という全人類の危機——が迫っていたため、選択せざるを得なかったのだろう。

制御できない道具は兵器として致命的であるが、使徒と渡り合える唯一の武器でもあるため、NERVはEVAの実用に踏み切っている。本来人間には手に余る存在であるため、当初よりEVAの暴走は計算の内であったと考えられよう。それ故、実験場に仕込まれた用意周到なベークライトや、異常なまでの拘束によりEVAを固定するケージを建造。制御不能になることを織り込み済みで、EVAとその関連施設は建造されている。そのため、施設内の事故は最小限の被害で済んでいるのではないだろうか。



制御不能、昭々たる要員機はモーター室の人間を攻撃し、よって騒がれるEVAの活動限界、暴走による危険を少なくする意味もあるのかもしれない。

特記事項

その他の実験と関連施設

研究のために使われた実験場の中でも、EVAの機体向上に関する試行錯誤は多かったと考えられる。特に稼働時間の延長に関しては熱心だったのではないだろうか。しかし、ただでさえ制御の難しいEVAの性能を向上させる試みは、このEVAがどれほどデリケートに出来ているかを示している。一方、EVAではなく適格者の練度も上げる方が着実に力になると考えたのか、適格者用のシミュレーターも開発されているようだ。しかし、練度の低いシンジが、適格者として育成されたアスカより戦果を上げていることから、結局のところシンクロ率の高さがEVAの戦闘力に結び付いているということは、実戦が物語の鍵を握っている。



EVAの稼働時間が延長された施設。EVAを用いた実験で、暴走の防止手段が求められる。

ガードテイルレンガシミュレーターで射撃訓練が行われていた施設。このような実戦さながらの訓練にも用いる。



新世紀年表

THE NEW CENTURY
TIMELINE CHRONOLOG

命の選択を

AMBIVALENCE

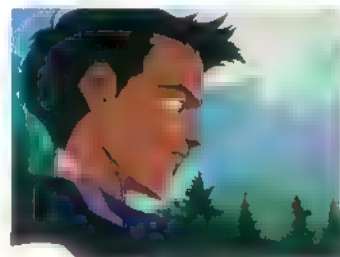
（この欄には、このエピソードに関する詳細な年表や解説が記載されています。内容は非常に小さく、読み取りが困難です。）

A.D.2015

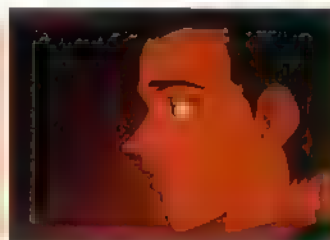
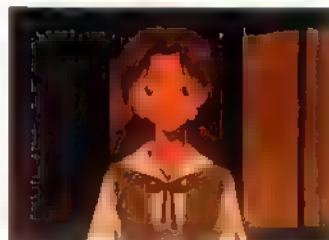
●第壹中学校

01 ヒカリ、トウジに弁当を作ることを約束する

放課後の教室でトウジが食べ損ねた昼食をかきこんでいると、ヒカリがちゃんと週番の仕事をするようにと声をかけてきた。「鈴原っていつも購買部のお弁当だね」「作ってくれるやつもおらんからな」。どこか上の空な様子で、トウジがぼやく。その言葉を聞いたヒカリは、いつも自分が家族のお弁当を作っていて、材料が余ってしまうのだと、おずおずと告げた。「そら、もったいないなア。……残飯処理なら、いくらでも手伝うで」「う……うん！ 手伝って」。トウジの言葉に、ヒカリは嬉しそうにならずいた。



週番仕事で居残るトウジ、昼休みに校長室へ呼ばれてから、なぜかその表情は固い。



「こっ見てもあたし、意外と料理うまかったりするんだ」。実はトウジが好きでヒカリは「必死に言葉をつもぐ」だが、心ここにあらずのトウジは「そんなヒカリの気持ちには気づかず、ぼんやりと受け答えしていた」。

A.D.2015

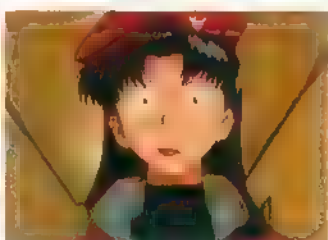
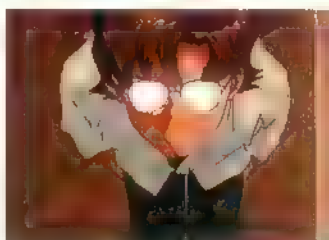
●第3新東京市

05 ケンスケ、ミサトに頼みごとをする

出勤時間直前の葛城家。アスカの姿が見えないことをいぶかるシンジに、ミサトはもう先に出たと教えた。「徹底してあたしと顔をあわせなかつもりね」「どうしてですか？」。不思議そうなシンジを、ミサトは苦笑ではぐらかす。やがてシンジは思い切ったようにミサトに訊ねた。昨日、ケンスケから聞いた情報……4号機が欠番になるという噂の真偽、そして、3号機が日本へ運ばれ、松代で起動実験を行なうというのは本当なのか、と。ミサトはかすかにうろたえつつも、噂が事実であることを認める。



シンジの問いに強張るミサト。彼女が口を開こうとしたとき、玄関チャイムが鳴った。



シンジがドアを開くと、そこには深く頭を下げたケンスケがいた。「今日は葛城、佐にお願ひにあがりました。自分を……自分をEヴァンゲリオン3号機のパイロットにしてください」。突然の訴えにミサトはあっけにとられる。

2015年

ヒカリ、トウジに弁当を作ることを約束する

アスカ、フォースチルドレンの正体を知る

EVA3号機、米国を出立

A.D.2015 ●第3新東京市

02 アスカ、フォースチルドレンの正体を知る

そのころアスカは加持の仕事部屋を訪ねていた。「すまない、今ちょっと忙しいんだ。あとにしてくれ」。PCに向いたまま振り向きもしない加持に、アスカはいきなり背後から抱きつく。モニターに映っていたのは、EVAパイロットのシンクロデータだった。それが4人分あることに気づいたアスカは、ぎょっとして身を乗り出す。「なにこれ、どうしたこと？フォースチルドレンがなんでコイツなの!?!」



想いを寄せる加持のつれない言葉にアスカは眉を寄せ「ふーん ミサトには会ってるくせに」と小声でなじる

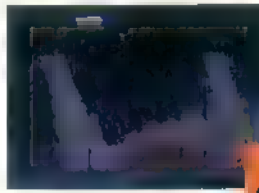
「イヤ! わかんないわ、なんなのコレ!?!」。4番目のパイロットの正体を知ってしまったアスカは、ヒステリックに叫んだ。



A.D.2015 ●米国

05 EVA3号機、米国を出立

米国、マサチューセッツ州にあるNERV第1支部から、一機の大型飛行機が飛び立とうとしていた。大雨が降りしきるなか、灰色の噴煙を噴きながらゆっくり上昇していく全翼機。EVA専用の大型輸送機である。その中央部には、第1支部で開発されていた3号機が、拘束具によって吊り下げられていた。これから3号機は太平洋上をわたって日本は長野、松代の第2実験場へ向かう予定なのだ。



雨に閉ざされた飛行場。立ち並ぶ照明の光を鈍く照り返しながら、巨大な輸送機が日本へ向かって飛び立とうとしていた

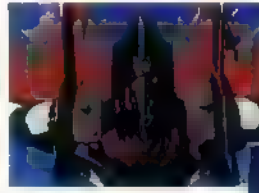
日本ではヒカリが楽しげに弁当作りをし、またトウジかなにかを振り切るかのよう。ハスケ トウジにフェイトを決めている



A.D.2015 ●太平洋上

04 EVA3号機、太平洋上を移動

雲海上を3号機を積んだ輸送機が進んでいく。やがて前方に大きな積乱雲が現れた。「エクタ64よりネオパン400。前方航路上に積乱雲を確認」。軽いノイズと共に輸送機から無線が放たれる。返答はほとんど間をおかず返ってきた。「ネオパン400確認。積乱雲の気圧状態は問題なし。航路変更せず、到着時刻を遵守せよ」「エクタ64、了解」。簡潔な通信が終わり、輸送機は雲の中に突入していった。



太平洋のはるか上空を松代へ向け進められていく3号機機体は十字架に固定されており、背部には3という文字が刻印されている

細く高くフェイト音を響かせながら、大きな積乱雲へまっすぐに突っ込んでいく輸送機。そのあとを追うように小さな放電が走った。



A.D.2015 ●日本

04 ミサト、松代へ移動する

ミサトはリツコと共にトレーラーに乗り、松代に向かった。結局、3号機のパイロットが誰なのか、シンジに告げることができなかったミサトは浮かない顔だ。パイロットは明日あたりに松代に呼ぶつもりだと述べるリツコ。「彼が自分で言い出すかもしれないわ」。そんなミサトのつぶやきを、リツコは淡々と否定した。「それはないわね。人に自慢するほど喜んではなかったもの」。



路松代へ向かう車中、真実を告げるのか怖いとこぼすミサトを、自分で保護者を買って出たのだろうとリツコは叱咤した

入院中の妹を本部の医学部に転院させるというのが、彼の出した条件だった、とリツコ。3号機パイロットはトウジだったのだ



A.D.2015

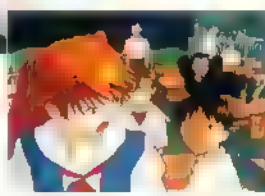
07 アスカ、シンジたちに背立ちをぶつける

始業前の教室。パイロットの件を断られたケンスケが意気消沈しているところへ、アスカが不機嫌そうに登校してきた。「先に出たのに、ずいぶん遅かったじゃない」。シンジが問うても無視するアスカ。だが、トウジが「なんや。今日は夫婦喧嘩はナシかい」と上の空ながらにからかうや否や、アスカはカバンを乱暴に机に叩きつけた。「あんたたちの顔を見たくなかっただけよ! この3バカトリオが!」。



ミサトは冷たいとぼやくケンスケをぼんやりしているトウジの間から様子が変わったトウジを、シンジは怪訝そうに見つめていた

EVAパイロットであることに誇りをもつアスカは、フォースチルドレンがトウジであることに納得できず、背立ちを3人にぶつける



A.D.2015 ●第壱中学校

08 レイ、トウジと話す

昼休み、トウジはシンジたちから離れ、屋上にいた。その背後にレイが静かに歩み寄る。3号機のパイロットに選ばれたことをアスカだけでなく、レイも知っていたのだ。まだ気づいていないのはシンジだけだった。「人の心配とは珍しいな」「そう? よくわからない」。トウジは淡々と言葉を吐いた。「お前が心配しとんのはシンジや」。レイは一瞬、驚いた顔になり、すぐに「そうかもしれない」と目を伏せた。



「知っとなのやろ、わのこのこと、惣流も知るとるよや」とトウジの問いかけにレイは「ふん」と小さくうなずいた

屋上にたたずむトウジとレイの様子を、ヒカリが教室の窓から見上げている。その手元には、差せなかった弁当があった



移動 EVA3号機、太平洋上を



飛行コース上に広がる積乱雲を通過する



ケンスケ、ミサトに頼みごとをする



ミサト、松代へ移動する



アスカ、シンジたちに背立ちをぶつける



レイ、トウジと話す

A.D.2015

●第壱中学校

09 トウジ、考えごとをする

昼休みが終わってもトウジは教室へ戻らない、地面に座り、シンジが転校してきたときを思い出すトウジ。EVAの戦闘のせいで妹がケガをしたあと、シンジがEVAのパイロットだと知った彼は、怒りにまかせシンジを殴った。使徒と戦う苦悩も知らぬままに――



空席が気になるシンジ。一方トウジは外にいた

憤りのままにシンジを殴ったことを思い出したトウジは拳を握り締める

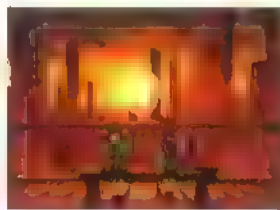


A.D.2015

10 ヒカリ、アスカに相談する

アスカはヒカリの恋愛相談であてられてしまう

学校帰り、ヒカ리는相談があるとアスカを誘った。「鈴原のことでしょ?」。当然のように言うアスカ。ヒカリの想いに気づいてないのは3バカトリオくらいで、中でもシンジが一番鈍感だというのがアスカの言だ。ヒカリはトウジがレイを好きなのではないかと心配していた。アスカはそんなバカなと驚き、力強く請合った。「安心して、ヒカリ。それはないわ。あの女はシンジの1万倍も人との付き合い、知らないもの」。



屋上にいるトウジとレイを目標として、ヒカリはトウジとの関係を気にしていたのだ



「あれが一番鈍感。おまけにバカよ。人との付き合い方、知らないもの。アスカのシンジ評は手厳しすぎるわ」



トウジのことがいのかというアスカの「ヨ」に「僕」ところ。ヒカリは頬を染めた



トウジの優しさなど理解できないアスカは、ヒカリのはらいたりに思わず硬直してしまう

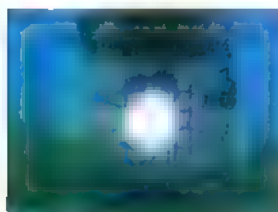
A.D.2015

●松代

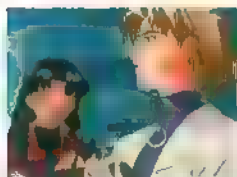
12 EVA3号機の実験準備が進む

ミサトは浮かない顔で実験準備を見守っていた

翌日。松代の第2実験場では、迫る3号機の起動実験に向けて着々と準備が進められていた。「これだと即、実戦も可能だわ」データをとりつつ言うリツコ。だが、ミサトは気のない様子だった。リツコが戒めるように言う。「この機体も納品されれば、あなたの直轄部隊に配属されるのよ」「EVAを4機も独占か。その気になれば、世界を滅ぼせるわね」皮肉な笑みを浮かべたミサトを、リツコはちらりとねめつけた。



準備作業の喧騒に落ちた実験場。進行状況を告げるアナウンスがセツの声と響き合う



ミサトらは総括指揮車で作業が完了したが、NERVに不審感を抱き出したミサトは冷めた表情だった



シンジにパイロットの話はしたので訊ねるリツコ。実験が終わったからね」とミサトはそげない



やがてフォースチールドレンが到着したというアナウンスが流れた。実験開始まであと少し

A.D.2015

14 ヒカリ、アスカに弁当を渡す

同じころ、ヒカリがトウジを探していた。「まだ来てないよね、アスカ?」とアスカに訊ねるヒカリ。松代にいるとも言えず、「今日は来ないかもね」とごまかすアスカ。「今日こそはと思ったのに……」。ヒカリは肩を落とし、「食べる?」と弁当を掲げた。



トウジが来てないか見回すヒカリだ。たか



ヒカリは余ってしまった弁当を、精一杯の笑顔と共にアスカに差し出す

2015年

トウジ、考えごとをする



ヒカリ、アスカに相談する



シンジ、アスカに呆れられる



加持、シンジと話す



●第3新東京市

11 シンジ、アスカに呆れられる

夜、まだ不機嫌そうなアスカに、おすおすとシンジが聞いた。「3号機って、誰が乗るのかな」「えっ。また聞いてないの?」。驚くアスカ。だが、すぐに「知らない」としらばっくれる。そこへミサトから留守番を任された加持が、風呂から上がってきた。またケンカしてるのかと呆れる加持に、アスカは「違うよよ!」と言い返した。



ミサトが留守の葛城家 保護者代理として白まりに来て、加持は「またや、あつてんのか?」と呆れ顔に。

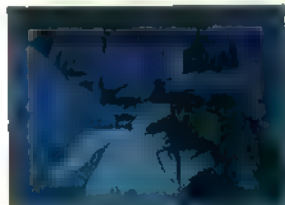


自分だってせ かく加持か。るんたから笑顔でいたい。でも今日はできな。のた。アスカは泣きそな表情で言った。

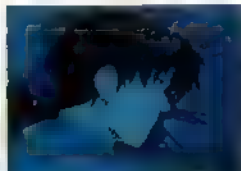
12 加持、シンジと話す

人は他人をわかることなどできないと加持は言った

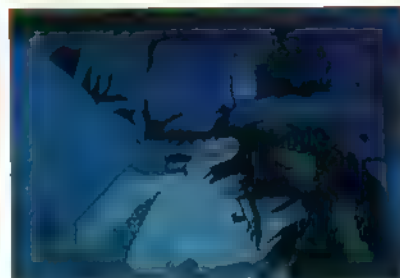
シンジは加持と居間で寝ることになった。父はどんな人か、加持に聞くシンジ。父のことをもっと知りたかったのだ。最近少しわかってきた気がするという彼に、加持は気がするだけだと返した。「人は他人を完全には理解できない。自分自身だって怪しいものさ。100%理解しあうのは不可能だよ。ま、だから。そ人は自分を、他人を知ろうと努力する。……だから面白いんだな。人生は」「ミサトさんともですか?」。そうシンジが訊ねると、加持は男と女の間には、海よりも広くて深い川があると答えるのだった。



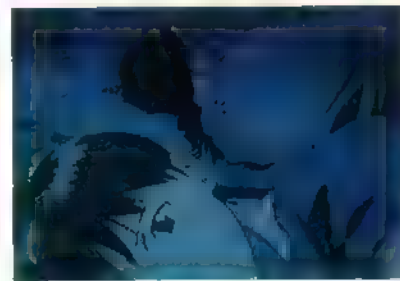
背を向けたまま、シンジと加持はひそやかな会話を交わしはじめた



「このごろわか。たんです。父さんのこと。いろいろと。仕事のこととか。母さんのこととか。それは違うな。静かに否定する加持



わかっないというの。は。ミサトのこと。も。の。か。と。聞。わ。れ。、。加。持。は。涙。が。け。け。と。し。た。顔。を。し。た。

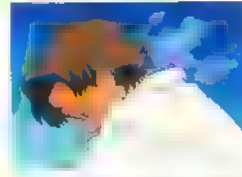


女は男に。こ。う。て。は。認。め。た。存。在。と。言。う。加。持。は。、。僕。は。大。人。の。人。は。わ。か。ら。ま。せ。れ。」「と。シンジ

●第壱中学校

15 ケンスケ、シンジと話す

一方、シンジとケンスケは屋上にいた。「3号機って、もう日本に到着してんだろ?」とケンスケ。「うん……昨日着いたみたいだけど」「いいなあ……。誰か乗るのかなあ」。パイロットになりたかったケンスケはため息をついた。「トウジのヤツかなあ。今日、休んでるしな」。ケンスケのぼやきに、シンジは「まさか」と苦笑するのだった。



屋上で昼食を取。った。ら。は。3。号。機。に。つ。い。て。話。し。て。い。た。夢。破。れ。た。ほ。か。の。ケ。ン。ス。ケ。は。ま。た。落。ち。込。ん。で。い。る。



トウジが本。当。り。3。号。機。パイ。ロ。ット。に。選。ば。れ。た。と。は。知。ら。な。い。シンジは、ケンスケの言葉。を。思。わ。ず。笑。こ。し。ま。っ。か。

A.D.2015 ●松代

16 EVA3号機、暴走

潜伏していた第13使徒により3号機が乗っ取られる

いよいよ起動実験が開始された。第一次接続、第二次接続。実験は問題なく進んでいくかに見えた。が、絶対境界線を突破した直後、異常が起こる。突如、3号機が暴走しはじめたのだ。警報が鳴り響く中、直ちに実験中止を言い渡すリツコ。即座に外部電源が吹き飛ぶ。だが、異常は収まらなかった。「ダメです。体内に高エネルギー反応!」。目を見張る職員たちの前で3号機が拘束具を引きちぎろうと身をよじる。その背に菌糸のようにねばつく糸が侵食しているのが見えた。3号機はいつの間にか使徒に寄生されていたのだ。



機体の背中側からイントリープラグが挿入され、実験が開始された



異常は前触れなく起きた。制御を離れもがき始める3号機。浮き上がったパノノの隙間に見える粘つく糸。第13使徒である。



まさか。使徒の。緊急灯。赤。赤。赤。の。指。揮。車。の。中。リ。ツ。コ。は。愕。然。と。つ。よ。く。



3号機の口。か。か。い。と。開。け。た。もの。の。よ。う。な。音。が。出。て。き。た。が。、。大。き。な。爆。発。が。起。こ。り。

EVA3号機、起動実験が開始される

ヒカリ、アスカに弁当を渡す

ケンスケ、シンジと話す

EVA3号機、暴走

S²機関を搭載した

EVA4号機の起動実験とその代償

EVAシリーズの使徒におよぼぬ能力にして、最大のウイークポイントとなっているのが、外的なエネルギー源を必要とすることに起因する活動制限——内蔵電源の消耗の早さ、アンビリアルケーブルによる行動範囲の限定である。この弱点を克服する手段として期待されたのが、かつて葛城博士が提唱した永久機関＝S²機関であった。S²機関は使徒の動力源ともなっており、第4使徒のコアが原形を保持したまま回収されたことにより、その解明は一気に進む。このコアを元にNERVドイツ支部がS²機関の修復に成功したことで、人類補完委員会は、世界各地で建造中のEVAシリーズへのS²機関実装を推進するのであった。

S²機関の実用化にあたり、S²機関のサンプルは、アメリカのNERV第2支部で建造が進められていた4号機へ搭載されることとなる。このS²機関の起動実験に成功すれば、EVAシリーズは名実共に使徒と同等の能力を有するはずであった。だが、この起動実験は失敗に終わり、EVA4号機のみならず、アメリカ第2支部の研究関連施設ごと消失するという大惨事を引き起こしてしまう。“爆発”ではなく、“消失”とされるのは、監視衛星からの観測の結果による。爆心地から半径89kmは、ディラックの海＝虚数空間に飲み込まれたものと推察されていた。すなわち、第12使徒によって存在が確認された、一種の別次元空間へ繋がる空間回路が、S²機関の暴走によって開かれ、4号機に取り付けられたS²機関そのものがいわば超小型のブラックホールのような働きをしたと考えられたのである。しかし、その事故原因は32,768通りが推測され、さらに反対組織の妨害の可能性も捨てきれず、原因を完全に特定することは不可能であった。「実験に失敗はつきもの」とも言うが（この言葉は赤木リツコ博士が不謹慎にも事故の感想として漏らしたとされる）、多大な人的被害をもたらしたのは、未知のテクノロジーを安易に利用した結果でもあったのだ。その意味においては、EVAも同様の危険を孕んでいるといえるだろうが皮肉にも、そうした危険なブラックボックスを利用しなくては、人類は使徒に対抗し得ないという点もまた事実なのである。

RELATED

- NERVアメリカ支部
- EVA3号機
- EVA4号機
- ディラックの海



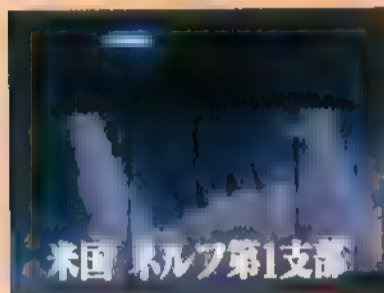
士によって提唱された永久機関である。またセカンドインパクトは、S²機関の暴走による事故との説もある。



NERVドイツ支部とNERVアメリカ支部で世界各地で建造が進められた。アメリカは3号機と4号機を建造し、アメリカのNERV第2支部では、EVA4号機とNERV第2支部でS²機関搭載実験が行われた。

NERV第2支部消失の経緯

「S²理論」実証のため、南極にて実験を重ねていた葛城調査隊であったが、セカンドインパクトにより実験は無に帰したように思えた。しかし、実験データは回収されており、さらにその15年後、回収された使徒のコアより構造や概念を人類は手に入れる。そして、S²機関のサンプルをEVA4号機に搭載、起動実験が行なわれたが結果は大惨事に。しかし、その技術は脈々と受け継がれ、EVA量産機で実用化に至る。



S²機関起動実験の失敗がもたらした大惨事は、アメリカ政府、NERV第1支部で建造された3号機を急遽日本のNERV本部へ引き渡すことを決定させる。3号機は空輸され、日本の松代実験場で起動実験が行なわれることになる。



完成したS²機関は、EVA量産機に実装された。約15年後、葛城博士の理論提唱から約15年で、夢の永久機関=S²機関は現実のものとなったのだ。

NERV第2支部消失という惨事を引き起こしたS²機関のサンプルだが、驚異的な早さの開発を可能としたのは、使徒のコアを手にする以前からの基礎研究の積み重ねによるものとも考えられる

NERV第2支部消失までのS²機関研究開発経緯

1 S²機関の提唱

夢の永久機関を実現するためのスーパーソレノイド理論は、1999年に葛城博士によって提唱された。生物の遺伝子と何らかの関係性のある理論であると考えられるが、その詳細は不明。だが、それは国連に支持され、実用化に向けての実験が南極で開始された。



現在はNERV本部作戦課長である葛城博士の息子。葛城サト。当時13歳であった、も関わらず彼女も葛城調査隊、同行している。

2 S²機関実験モデルの運用試験

南極では、葛城博士率いる葛城調査隊によってS²機関の実験モデルを使用した運用テストが行なわれたと考えられており、その実験データはセカンドインパクトの前日、幸運にも南極から持ち出されている。故にセカンドインパクトの原因は、その実験の失敗であるとの説も出ている。



セカンドインパクトの原因は、公式には隕石の衝突とされているが、実はS²機関を搭載した“何か”の暴走、よるものとの説もある。

3 S²機関の回収と復元

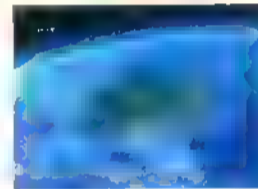
2015年、NERVは初号機が破壊された第4使徒の体から、その動力源(S²機関)と目されるコア部分を原形をとどめたまま回収することに成功した。ドイツ支部の手によりコアは修復され、これによりもたらされた技術情報を基にして、S²機関のサンプルが製作されている。



初号機によって破壊された第4使徒の爆発は、なかなかに初めて人類は使徒の標本を入手し、コアがS²機関であると確認された。

4 NERV第2支部消失

完成したS²機関のサンプルは、アメリカのNERV第2支部で建造中のEVA 14号機に搭載され、起動実験が行なわれることとなった。しかし、実験は失敗。激しい爆発光を残して、第2支部はS²機関を積んだ1号機ごと半径89kmが瞬時に消失してしまった。



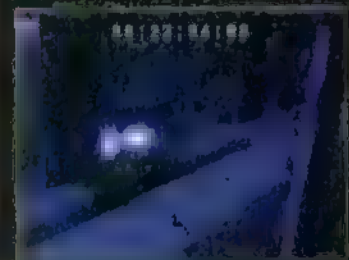
実験はS²機関の暴走、第2支部消失という最悪の結果となった。この事故が発生した爆発光は、大気圏外からも目視可能なほどであった。

技術調査

S²機関の理論とその実用化

S²機関(Super Solenoid Engine)とは、1999年に葛城博士と使徒の父親・故葛城博士によって提唱された、永久機関に関する理論考案——「スーパーソレノイド理論」(S²理論)に基づく動力装置のことを指す。スーパーソレノイドとは、生命体の持つ遺伝子の二重螺旋構造のことであり、いわば生命活動エネルギーの発現を機械工学的に行なおうとしていたと推察される。葛城調査隊が消滅してしまった現状では、情報が著しく不足しているため、その詳細については不明だが、このS²理論が実現すれば、エネルギー源を補充することなく恒久的に活動し続けることのできる動力が生み出されることとなるわけである。使徒が生命体としても兵器としても突出した能力を有している理由としては、このS²機関をエネルギー源としていると推測づけられている。なお、使徒がS²機関によって活動していることが実証されたのは、EVA初号機によって破壊された第4使徒シャムシエルのコアが、容器的に原形を保ったまま回収されたことに起因するものと見られる。

こうしたことから、S²機関の実用化とEVAシリーズへの搭載は、対使徒能力補強としては原案であった。そして、使徒のコアをリパースエンジニアリングすることで得られた情報とノウハウ等によってS²機関は完成し、のちに破壊された3号機のEVA量産機へと実装されることとなる。



葛城調査隊の記録映像には「実験対象に人間の遺伝子をダイブ」と聞き取れる箇所があり、S²機関と人間の遺伝子の関係性がうかがえる。

EVAシリーズの量産型モデルは、サンプルの複製を基に改良された複製型のS²機関を動力源としている。そのためのエネルギー源は、深層未開拓であり、活動限界も不明である。



▲EVA量産機



EVAシリーズのA.T.フィールドは、エネルギー源の使用限界がある。だがS²機関を利用すれば、その制限なしに展開可能となる。



EVA初号機の驚異的再生能力。S²機関を搭載すれば、使徒同様の自己再生能力に加え、適応変化能力が備わる可能性もあった。

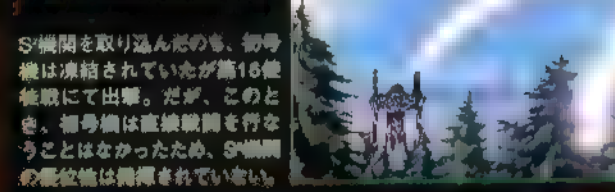
特記事項

初号機のS²機関搭載

EVA4号機へのS²機関搭載実験が行なわれたことは別に、日本のNERV本部に配備されていたEVA初号機はイレギュラーを形で独自にS²機関を組み込むことに成功している。それは第14使徒との戦闘の最中に行なわれ、そのプロセスも特殊と言わざるを得ない。第14使徒の攻撃で一度は活動停止状態に追い込まれたにもかかわらず、初号機は再起動し、使徒を一撃の下に撃破。初号機は活動不能となった使徒に接近し、その体を捕食したのである。捕食箇所は使徒のコア付近であり、これを見た赤木リツコ博士は、それがS²機関の取り込み行動であると同時に看破している。だがこの行動は操縦者の意志ではなく、むしろ初号機の本能的行為——仮に初号機に自我があれば、という大前提が必要であるが——のように見えた。この初号機のS²機関搭載に関する報告を受けた人類補完委員会は、遺憾の意を表したとされる。



第14使徒の肉体を捕食することで、初号機は発生するはずのないS²機関を直接取り込めることに成功した。



S²機関を取り込んだ初号機は凍結されていたが第16使徒戦にて出撃。だが、このとき、初号機は直接戦闘を行なうことはなかったため、S²機関の配位は保持されていない。

EVA戦闘支援システム

EVA COMBAT SUPPORT SYSTEM

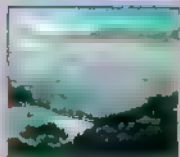
一般的にシステムとは、個々の要素が組み合わされたまとまりを持つ全体や体系のことを指す。そういった観点から見れば、第3新東京市に設置されているEVAの活動を支援するための施設、あるいは第3新東京市は、EVAの行動——使徒との戦闘——を支援するための「システム」といえるだろう。

第3新東京市に本部を置くNERVと、そのNERVに向かって侵攻してくる使徒——両者の関連性は、明らかにされていない（地下に保管されているアダムとされる物体を目指して襲来するとも言われているが、これも真相は定かでない）。ただ、NERVが存在することにより、第3新東京市は戦場となることをあらかじめ運命づけられていたことは間違いない。「使徒に唯一対抗しうる戦力はEVAのみ」という認識あるいは確信のもとでEVAを開発していたNERVは、国連直属であり、第3新東京市の建造もまた国連主導によるものであった。そのため結果的に（すべてが計画的なものであったと見る向きもあるが）、NERVが所有するEVAと第3新東京市はより密接にリンクすることが可能となった。各種迎撃兵装、EVAに電力を供給するための電力供給ビルとケーブル、EVA用の武器を収納した兵装ビル等々——対使徒戦用に用意された施設の全貌は明らかになっていないが、それら使徒迎撃のための各種施設の建造により、第3新東京市は「迎撃要塞都市」と呼称されるに至った。なお、EVAとその戦闘支援システムは、一都市が持つには過ぎた戦力であったため、実際に使徒が襲来するまでは、「本当に使徒は第3新東京市に向かってくるのか」という問題も危惧されていた。そういった声がある中でなお、強行に建造を推し進められてきた事実から見ても、「第3新東京市が使徒との決戦場となる」という強い確信を国連——あるいはそれらの上位に立つ者たちが持っていたことが窺える。

ちなみに各種施設には、同都市が要塞都市であることを認識させないための偽装が施されていた。第3新東京市で暮らす一般人は、使徒襲来時にはシェルターに避難させられたため、実際にEVAと使徒が交戦するにいたってもなお、自分の住む場所の真の姿を知らないものがほとんどであったようだ。

RELATED MATTERS

- 第3新東京市
- EVA
- NERV
- 第2次遷都計画



首都機能を移転するという名目で着工された特殊な要塞都市。2015年、おいてもいまだ完成には至っていない。



EVA支援を目的とした施設

各施設の役割

古来より城は、戦闘のために作られた拠点である。第3新東京市はEVAが十二分に力を発揮できるように、テクノロジーの粋を結集した21世紀の城といえよう。対使徒戦闘のため偽装迎撃要塞都市として作られ、その名の通り都市の各所には、EVAの戦闘を支援する上で欠かせない様々な施設が設置されている。それらは攻撃、防護、補給、移動の各機能から成り立ち、一見してそれとわからぬようビルや施設の姿などにカモフラージュされている。各役割として、ミサイル等の兵器での攻撃、装甲板等による防御、武器庫及び電源を供給する補給、出撃及び回収を行なう移動ポイントがあり、EVAの運用に貢献を果たす。これらが都市内に多数用意され、必要な支援がすばやく受けられる仕組みである。

EVAが戦闘に入る際、第3新東京市は戦闘形態へと移行。重要施設を守ると同時に、EVAの支援をスムーズに行なうための要塞都市と化す。

EVAが戦闘に入る際、第3新東京市は戦闘形態へと移行。重要施設を守ると同時に、EVAの支援をスムーズに行なうための要塞都市と化す。



建築計画のお知らせ

施設名	機能	所在地
格納庫	兵器の保管	都市中心部
電源室	電力供給	都市周辺部
移動ポイント	EVAの移動	都市各所
迎撃施設	使徒の迎撃	都市周辺部

第3使徒サキエルの襲来時、食システムは完成しておらず、迎撃システムが完成したのは第13使徒バルディエルの襲来直前であった。

第3新東京市及び都市部周辺に配置された戦闘支援システム

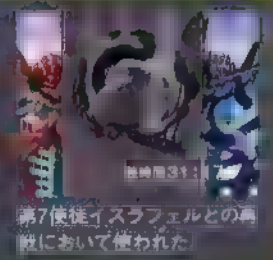
迎撃のみに特化した第3新東京市は、使徒を内部に招き入れることで本領を発揮する、要塞にして艦。都市の各所に配置された攻撃面、防御面、補給面、移動面の各戦闘支援システムがEVAとの密接な連携によって、迎撃という名の狩り場として機能する。

支援施設は随所に設けられ、都市はまさに“庫いところ”に手が届く”EVAのための箱庭といえよう。ただし、迎撃が前提であるため施設の損傷も多く、実戦における移動が十分でない事態も発生。完全に機能し始めたのは対使徒戦も終盤の第13使徒の襲来直前であったのは皮肉である。



防御用の装甲板

使徒の攻撃から身を守る防御用の装甲板。その断面より戦車の複合装甲のような構造と推測される。EVAが特定位置に来ると自動的に、使徒の攻撃を食い止めて防ぎつつ、装甲板の影から銃撃などを行なえる。



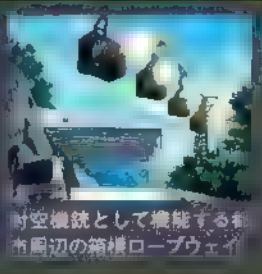
電源及び兵装ビル

EVAの電源または武器が格納された予備装備の供給ビル。本来ならアンビカルケーブルにより活動可能範囲があるEVAだが、移動先で電源を付け替えることで動ける範囲を第3新東京市全土に広げている。



各種迎撃兵器

使徒迎撃用の通常兵器。普段、都市部においてはビル、都市周辺においては山間部やロープウェイなどに偽装している。あくまで補助的なもので、通常兵器の効かない使徒に対しては主に牽制や誘導に用いられる。



移動システム

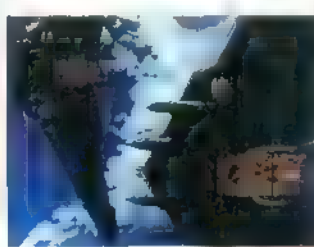
第3新東京市及びオフィスの各所に通じるEVAの射出口及び回収スポット。ケージから速やかに目的地へ送り出せるため、予備兵力を敵の背後に送ることも、先手を打っての待ち伏せ配置を可能とする。



特記事項

第3新東京市外での支援態勢

第3新東京市内での運用を考えたEVAだが、状況によっては打てることがある。都市全体がEVAの支援システムであるため、遠征した際にはEVAの運用性はかなりの制限を受ける。攻撃については国連軍等による支援が受けられるものの、補給に関しては現地での電源確保が精一杯であり、戦況に応じた武器の交換などリアルタイムでの支援能力は大きく劣ってしまう。指揮に関しては移動指揮車にてカバー可能だが、やはりリアルタイムでの対応では発令所からの直接指揮が出来ない分、使徒の分析などにタイムラグがある。このように、都市外で戦うのはEVAにとってリスクの高い運用である。



遠征時は専用の長距離輸送機を用いる。あくまで移動手段の足でなく、戦闘時において戦術的な移動を行なえるものではない。

機体の輸送のほか、電源の供給等を行なうサポート班と発令所の代わりとなる指揮担当班が同伴するため、大規模な編成となる。



使徒迎撃用の施設

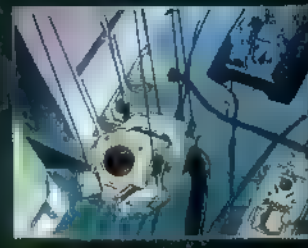
都市部だけでなく第3新東京市の周辺にも迎撃施設が整っており、箱根ロープウェイの対空機銃、山間部のロケット砲、偽装ビルのミサイルなど多様な兵器が配置されている。通常兵器のため使徒に対し有効打とはならないが、火力の集中によって牽制を行なうなど、打撃を与える以外の効果を狙う支援攻撃のための施設である。



都市部でミサイルを使うという迎撃都市ならではの施設。施設への被害を抑えるため、目標への誘導性能はかなり高いのである。

電力供給ビル・ケーブル

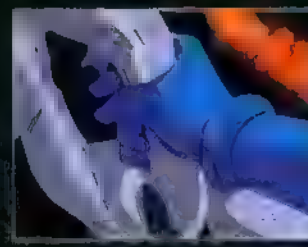
EVAが十分に戦えるための肝である施設。活動のための電力を有線ケーブルに繋ぐEVAにとって、移動範囲がネックであった。しかし、第3新東京市中に予備電源を設置することで行動範囲は市全域に広がり、随所に配置することでケーブル切断という不足事態にもすぐさま対処可能というEVAの活動を根本から支えるシステムである。



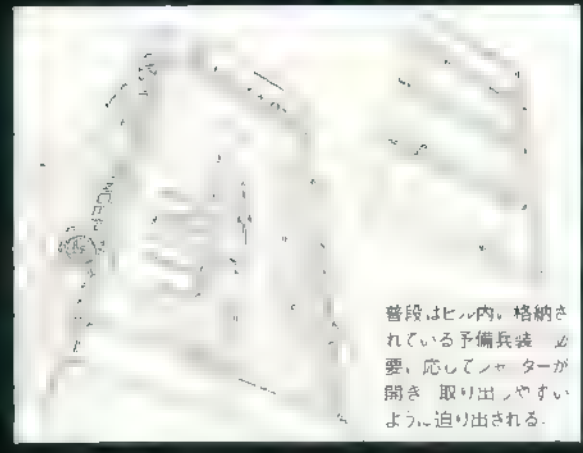
使徒戦においてアンビカルケーブルの断線は予備で備えられたアクセントであるため、予備ケーブルの設置は必須事項であった。

兵装ビル

EVAの武装を収納している施設。基本的に中央作戦司令部からのコントロールによってビルのロックが解除されるようだが、EVA側からも必要に応じて武器を得ることができると思われる。武器が弾切れ、または破壊されてしまった場合でも、すぐさま予備の武器を手にとることが可能な態勢の立て直しが容易。なお、相手に合わせて随機応変に武器を使い分けるといった戦法が可能であり、戦いのパリエーションを増やす利点を持つ。



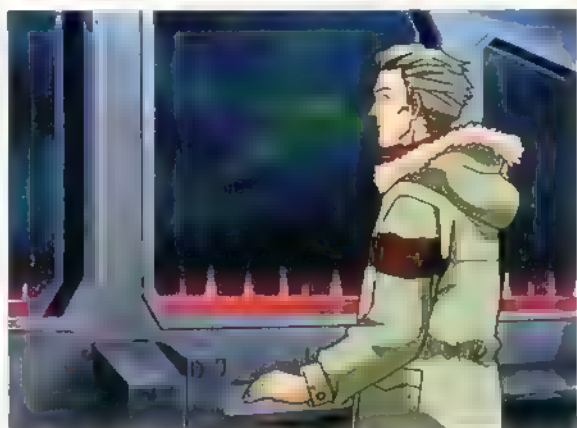
武器の受け取りが可能になった際、EVAの兵器管制システムと連携して施設の電源をバypassして流しこめる仕組みも存在している。



普段はビル内、格納されている予備兵器。必要に応じてセクターが開き、取り出さすように、送り出される。

南極大陸

南極点を中心とする地球最南端の大陸。この大陸及び周辺の島嶼や海域などの南極海を含む地方が南極である。なお、1959年の南極条約によって南緯60度以南の領有権は凍結中。2000年9月13日にセカンドインパクトが発生した地でもある。その影響で水が融解した結果海面が上昇したため世界各地に大きな被害をもたらした。この出来事によって南極大陸自体は消滅してしまったようであり、セカンドインパクト後の南極は紅い海水と塩の柱で覆われた死の世界となっている。この地は完璧にエリアを特定して大気成分が変化しており、微生物に至るまで全ての生物が徹底的に消滅しているという事実が、国連の調査団によって確認されているようだ。



セカンドインパクト後の南極。冬月コウゾウは「これがかつての水の大陸とはな。見る影もない」と驚きを隠せないほどの変わり様であった。

南極大陸マーカム山

南極大陸で2番目の高山。なお、最高峰はエルスワース山脈のビンソンマッシューフである。国連の公式発表ではセカンドインパクトの原因とされる大質量隕石は、このマーカム山に落下したという。その落下15分前にメキシコのアマチュア天文学者セイモア・ナンによって観測されたことになっているが、すべては国連の情報操作による偽の情報である。

南極調査船

セカンドインパクトの正式な事件調査のため、国連理事会により派遣された船。冬月コウゾウは、何者かの推薦によってこの船に乗ることとなる。ゼーレの人間だけで調査団を構成するには世間的に問題があるため、形だけの間に合わせとして冬月などゼーレ以外の人物が招かれていたようだ。冬月は碓ゲンドウの思惑あつての人選だと考えられる。



この船の第2隔離施設には、葛城調査隊唯一の生き残りとして連れてこられたと思われる葛城ミサトも乗船していた。

南極の地下空洞

セカンドインパクト爆心地の地下に見られた巨大な空洞。葛城調査隊のUNDER GROUND BASE02はこの場所に設けられていたと考えられる。また、国連のセカンドインパクト調査団の資料には南極大陸のスキャン画像があり、この空洞はコードネーム「WHITE MOON」と名付けられていた。その調査には、ジャイアントインパクト時にできた空洞であり、表面は明らかに人工物だと明記してある。



葛城調査隊はここにセントラルグマとってNERV本部施設と同名の施設を建設し、アダムと名付けられた巨人、実験を行っていたものと思われる。

南沙諸島

スプラトリー諸島とも呼ばれる南シナ海に浮かぶ小さな島々。それぞれの島は大変小さく、しかも互いの距離は十数km～数十kmも離れているため居住地域としての価値はほとんどない。しかし海洋及び海底資源が見込めるために、中国台湾、ベトナム、フィリピン、マレーシア、ブルネイ等がその領有権をめくり争っており、第二次世界大戦中などは日本も領有権を主張していたことがあった。1992年、中国とベトナム間で領有権争いが発生している。セカンドインパクト後の2003年に起きた軍事衝突は、日本国に戦時自衛隊を発足させる要因となった。なお、第1回機体相互互換試験後に物流・アスカ・ラングレーが部屋で流していたラジオ番組では、南沙諸島を巡ってのテロがまた起きた旨を女性パーソナリティーが伝えており、2015年においても争いは未だ絶えていないことが分かる。

● CATEGORY に

ニードル発射装置

EVAの肩部パイロンにあるマルチプル・ウェポン・ベイに装備できる武装のひとつ。別名ニードル射出装置、ニードルガンなどとも呼ばれる。針状の弾丸を射出する発射口は7つあり、一射ごとに薬莢が排出される仕組み。2射14発は最低でも射出可能。射程距離は短く、超近接戦において敵の不意を突くように用いる兵器と考えられる。第17使徒タブリス戦後に修復されたEVA式号機の右肩に搭載されていた。



心身耗弱状態から復帰した物流・アスカ・ラングレーが、EVAシリーズ（10号機）と戦った際、使用が確認された。

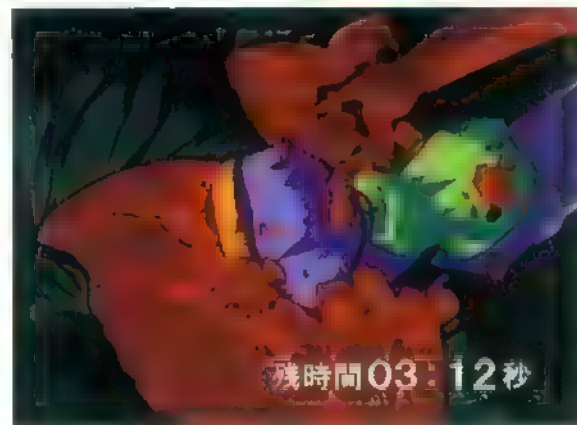
西添博士

NERV本部の技術局3課に所属する人物。自動販売機が並

ぶ休憩所で加持リョウジと葛城ミサトが話していた際のアナウンスで、開発2課に至急連絡するように呼び出しを受けていた。

二点同時過重攻撃

分離したふたつのコアに対する同時攻撃。分離・合体能力を持つ第7使徒イスラフェルを殲滅するための攻撃方法であり、EVA2機によるユニゾン攻撃が必要であった。そのため、まず初手の攻撃によりイスラフェルを分離させ、2体へ同時にダメージを蓄積していく。それが分離体の許容量を越え、合体により再び元に戻りダメージコントロールを行なおうとする瞬間、分離中のふたつのコアを同時に過重攻撃して破壊するという作戦が執られた。なお、過重とは負担が大きすぎるという意味。



イスラフェル唯一の弱点が分離中のコアに対する攻撃であった。初号機と式号機がユニゾンによる跳び蹴りを同時にコアへ決め、攻撃は成功を収める。

日経産新聞

人類補完が行なわれたと思しき「EVAのパイロットではない」破シンジの可能性の世界のひとつで、碓ゲンドウが読んでいた朝刊。日付は2016年9月。中には「南極昭和基地見学者に開放」という見出しがあり、その中には「ソ連基地」の名がある。この世界ではソビエト社会主義共和国連邦が崩壊していないのかもしれない。また、南アフリカ共和国の大統領選挙、常温核融合のニュースが掲載されている。



食卓で新聞を読みかけるゲントウは、妻のメイから「新聞ばかり読んでないでさ」と支度して下さい」とたしなめられていた。

2年A組

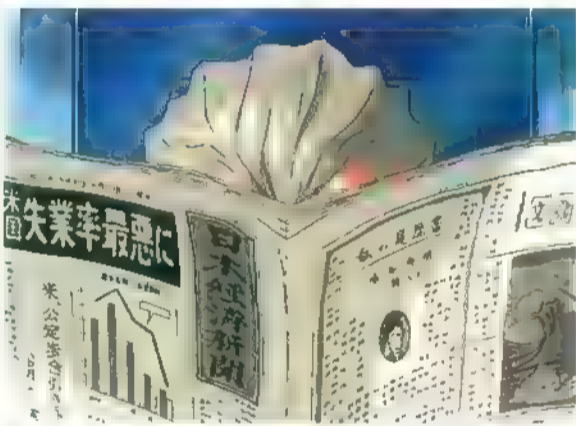
第3新東京市立第志中学校のクラス。綾波レイ、碓シンジ、惣流・アスカ・ラングレー、鈴原トウジらエヴァンゲリオン操縦適格者が在籍している。また、相田ケンスケ、洞木ヒカリも同じクラスであり、委員長はヒカリが務める。そのほか黒板にて田中、石川という名が確認できる。相次ぐ転校によってクラスの総在籍数は減っており、第3使徒サキエル襲来時の戦闘、通称「第3新東京市街戦」または「第1次直上会戦」後、疎開によってさらに人数が減っているらしい。なお、数学の授業は、何かとセカンドインパクトの思い出を語りたがる老教師が教鞭を執る。



2-Aの全生徒は、NERVによって集められ、保護されていたEVA適格者候補であり、結果的には鈴原トウジがフォーステッドレンに選抜された

日本経済新聞

第3新東京市評議会の定例に出席した冬月コウゾウが、電車の中で読んでいた。日付は2015年の金曜日。一面の見出しには「米国失業率最悪に」とあり、グラフ付きで特集されている。なお、SSTO内で碓ゲンドウと同席した男は「失業者アレルギーですからね、あの国」と評しており、グラフの推移を見るに、米国の失業率はかなり深刻な様子



一面の裏にある文化欄には、庵合秀明 詩人の「私の履歴書」というコラムが掲載されている

日本国政府

日本国を統治する内閣や中央官庁などの統治機関の総称。政府の置かれた首都東京はセカンドインパクト後に新型輝弾で壊滅したため、日本臨時政府が発足。遷都により長野県松本市が第2新東京市となり、2015年時日本国の中枢となっている。第二次遷都計画により第3新東京市の建設が進められており、完成時にはこちらに移される予定になっているものと推測される。使徒殲滅などの活動を行なう際、基本的にはNERVに協力する姿勢を見せているようだが、超法規的に保護された彼らの強権ぶりにはあまり良い顔をしておらず、関係は良好であるとは言いがたい。むしろNERVに対し対抗心すら持っているように思われる。それはNERVに情報を公開させるべく裏で法的整備を進めていたり、日本重化学工業共同体が開発した人型兵器J.A.に関与していたりするという事実からも容易に見取れよう。しかし、結局のところNERV広報部が作成した偽の情報を記者発表したり、ヤシマ作戦に全面協力したりと、NERVの権限によって国家としては協力的な姿勢を取らざるを得ない。のちに日本国政府は「NERVが推し進める人類補完計画の目的とは、サードインパクトを誘発させることである」という情報に踊らされ、NERVの法的保護の放棄と日本国政府への指揮権の移譲を意味するA-801を発令。戦略自衛隊1個師団により本部施設の直接占拠を図っている。このような強行手段に出たのも、それまでに募っていたNERVに対する不信感、危機感による部分もあろう



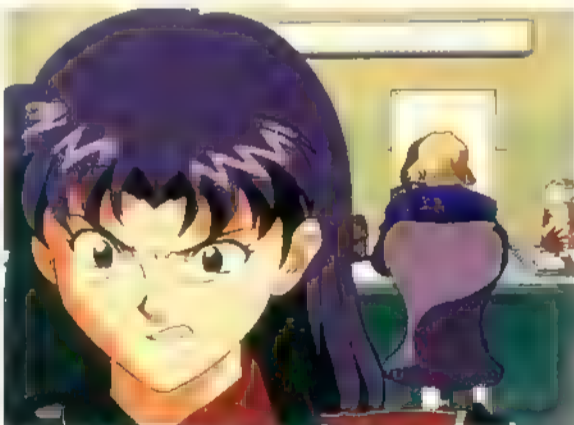
電話で指示を出していた日本国政府の首相は、NERVの直接占拠後の跡地を旧東京のように20年は封地にするつもりであったようだ

日本国政府内務省

警察や地方自治など国内行政を担う中央官庁。NERVの内偵を行っていた加持リョウジがこの調査部に所属していることから、諜報活動を担っている官庁と思われる。なお、内政及び民政の中心省として明治に設置されたが、第2次世界大戦後GHQによって解体されており、何らかの理由で復活したものと考えられる。日本政府調査部の女性も参照。

日本重化学工業共同体

巨大人型自走兵器J.A.(ジェットアローン)を開発、建造した団体。J.A.の開発責任者として時田シロウが所属している。人型兵器を開発してEVAに対抗しようとしていることや、NERVを代表してJ.A.完成披露記念会を訪れた葛城ミサトや赤木リツコへの非友好的な態度を見ても、NERVという機関に強い対抗心を持つ団体であるものと考えられる。第28放置区域において行なわれたJ.A.の公試運転では、NERVの諜略により暴走し、炉心融解ひいては放射能汚染を引き起こしそうになった。民間の団体でありながらNERVの極秘情報であるとされるA.T.フィールドの存在を知っていたことや、J.A.のプログラムをデリートする際に内務省長官に許可を求めていることなどから、日本国政府との密接なつながりを窺い知ることができよう



ミサトは「ウチの利権にあぶれた連中」と語っていた。NERV利権の恩恵を受けられなかった企業同士が手を結び、日本国の後ろ盾を得て設立した共同体だと考えられる

日本政府調査部の女性

日本国政府の諜報機関に所属する人物と思われる。マルドゥック機関を調査するため京都を訪れた加持リョウジに接触した。外見的には中年女性で、一見すると普通の主婦。マルドゥック機関と繋がる108の企業のうち、106までがダミーであることを突き止め、加持が訪れたシャノンバイオという外資系ケミカル会社もダミーだと登記簿で裏付けしている。彼女はNERV本部の内偵を仕事とする加持に、マルドゥックに顔を出すのはまずいと忠告するために接触してきた。また、第8使徒サンダルフォン捕獲作戦が展開されている際

に、ロープウェイの中で加持と接触していた女性もまた、諜報部の人間であると推測される



買、物袋を横、置、てネツに顔を与える主婦らしき中年女性彼女の手に持った雑誌の内側には調査したタ、会社の登記簿があった

人形

接触実験の結果、精神崩壊を来したアスカの母、惣流・キョウコ・ツェッペリンが娘だと思い込んでいた女の子の人形のこと。当のアスカに対しては「あそこのお姉ちゃん」呼ばわりをしたキョウコは、幼いアスカに深いトラウマを植えつけた。母親に自分の存在を否定され、人形に自分の居場所を奪われた彼女は、周囲に自分自身を認めさせることに一人一心血を注ぐようになったと思われる。無表情で人形じみた綾波レイを酷く嫌う理由も、この過去に依るものと考えられる。ただ、人形呼ばわりされたレイは、碓ゲンドウの人形、道具であることを否定し、サードインパクトの際に自らの意志で未来を委ねる相手に碓シンジを選んでいる。なお、アスカの父は「まるで人形の親子だ」と精神を病んだ妻を擲擻し、キョウコの担当医は「人形は、人間が自分の姿を模して作ったものですから。もし神がいたとしたら、我々はその人形に過ぎないのかもしれませんが」と皮肉げに語っている。また、アスカはEVA式号機を「私の人形」だと言いつつ、話しかけるといふ行為をしていた



キョウコは人形を娘として信じ続け、ついそアスカのことを本当の娘と認識することなく自殺してしまっ

ニンニクラーメン チャーシュー抜き

EVA3機による共同作戦により第10使徒サハクィエルを殲滅した後に、葛城ミサトの奢りで綾波レイが注文したラーメン。本来ならば使徒殲滅後の食事はEVA操縦者3人を連れ、ミサトの奢りでステーキを食べることになっていたのだが、レイが肉を嫌うために惣流・アスカ・ラングレーが行き先をどんこつラーメンの屋台に変更した



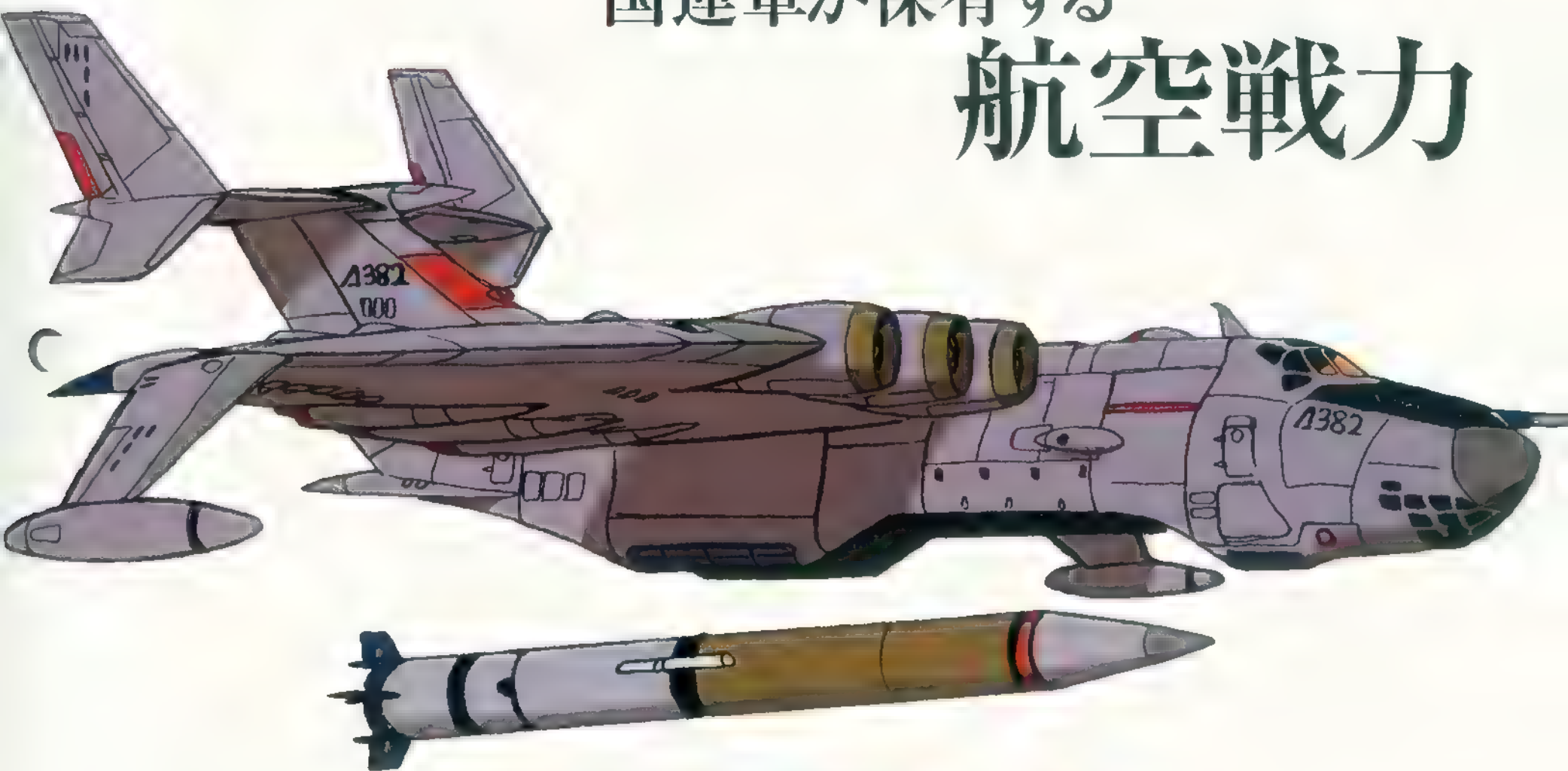
わざわざチャーシュー抜きのラーメンを注文しており、レイが肉類全般を苦手とくれていることが分かる

国連軍兵器

UN 航 空兵器

国連軍が保有する

航空戦力



第1次世界大戦で初投入された航空機は、第2次世界大戦を経て高い有効性を示し、陸上と海上に並ぶ戦力の一端を担う兵器となった。世界中の海面が上昇し、陸地の占める面積が少なくなったセカンドインパクト後においては、国連海軍の主力が老朽艦である一方、航空兵器は新機体が開発、配備されていることから、この時代の兵器の需要が押し量れよう。中でも、限られた空間で運用できる垂直離着陸性能を有する航空機が重宝されているようだ。

日本においては自衛隊が国連軍として機能しており、使徒との戦闘に投入されている。特に航空自衛隊 (Japan Air Self-Defense Force) は地形に左右されず偵察や敵の誘導などで運用でき、通常兵器が効かない使徒に対しても有効性を発揮。直接的な戦闘以外において、府中の航空総隊司令部を中心に NERV の作戦遂行のために尽力している。



A17の発令に際し、使徒の捕獲を失敗した場合の後処理として、民間以上空に待機していた国連空軍



第3新東京市が停電した際、使徒の接近を知らせるために第3管区航空自衛隊の機体が空から情報を伝えた。

Air Force

大型機

機体下部に大型ミサイルを搭載できる爆撃機。左右の翼に3基ずつエンジンを搭載することで高い航続能力を持つ。第3使徒サキエル及びEVA式号機に対して投入されたが、戦果は皆無である。



大型機が搭載する戦術攻撃用の空対地、サイルは精度の高い終端誘導装置を持つと考えられる。ただし、命中してもATフィールドを持つ使徒やEVAにダメージを与えるほどの力はない。



戦略自衛隊も同様の機体を保有。爆撃可能な機体を有す時点で戦略自衛隊には専守防衛の原則がないことが分かる。



→ミサイルの直撃を受けるEVA式号機

偵察用無人ヘリ

高い情報処理能力を備えた無人ヘリコプター。機体の左右に4枚ブレードのローターを備えたツインローター式であり、NERV仕様の機体もある。無人のため人的損失という大きなリスクを回避でき、危険な場所に投入できるという利点大きい。



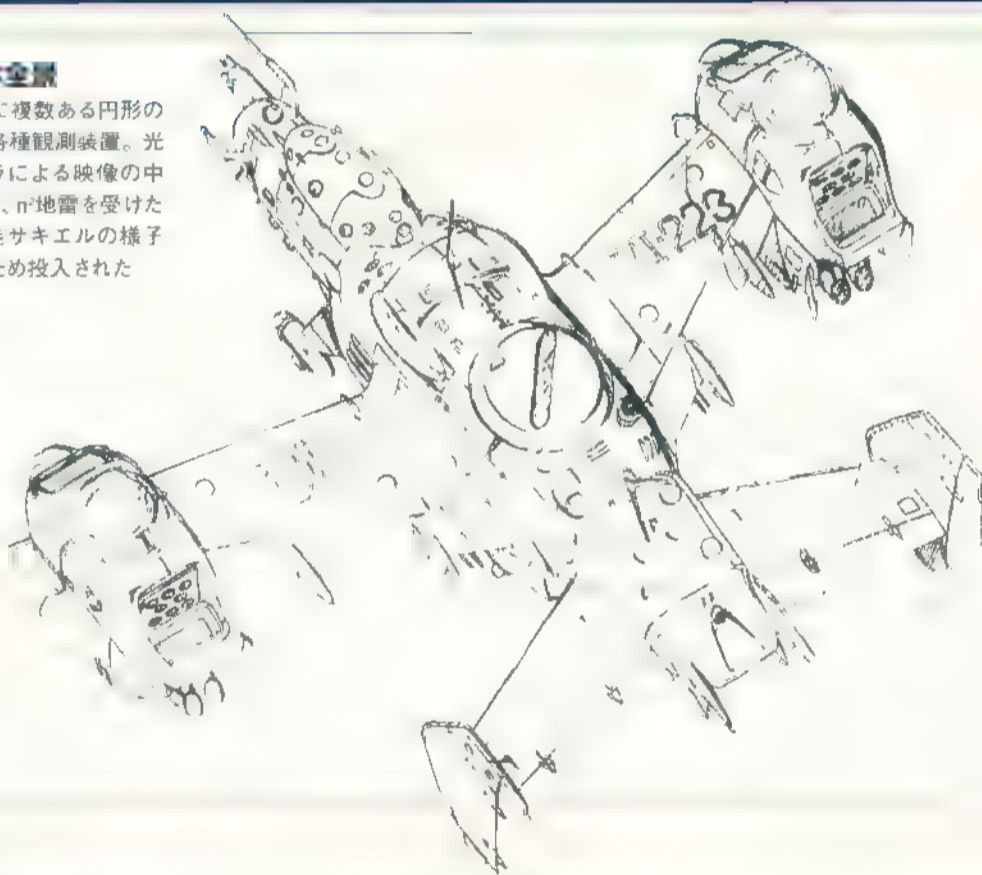
医療用の救急ヘリとして使われるタイプも存在。第13使徒バルディエルが原因で起きた、松代の地下実験場爆発事故の際に用いられていた。

浅間山の火口内に使徒らしい不審な影が発見された際、空から電磁波を照射して、その反射波を解析する航空機SARによる調査も行っていた。



機体全貌

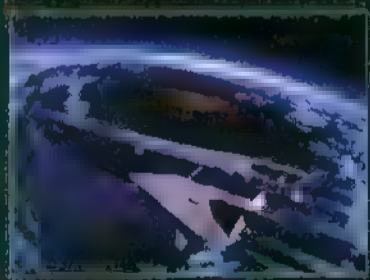
機体に複数ある円形の窪みは各種観測装置。光学カメラによる映像の中継により、M地雷を受けた第3使徒サキエルの様子を探るため投入された。



特記事項

SSTO

「Single Stage To Orbit」単段式宇宙輸送機のこと。別々のブースター等を使わず、シャトル単体で成層圏へ往復可能な宇宙往還機。なお、機体下部は超電磁コーティングが施されており、EVA専用耐熱光波防弾兵器として活用された。



機体下部が宇宙の会議に出席するために使用。機内は貸し切りであり、例外的な目つきの良い男から情報提供を受けていた。

↓SSTO後部



↓SSTO全景



SSTOの機内。地球周回軌道を経由するため長距離間の移動に最適だが、国連の要人レベルが使用する乗り物であろう。

- 国連軍
- 厚木
- 戦略自衛隊
- NERV



成された多国籍軍。空軍には、重戦術機などセカンドインパクト以後の最新鋭機が配備されている。

第23話「人類補完計画」

明かされるエヴァと「人類補完計画」の秘密。
リツコと父親の真の目的も知る。

第24話「今、契約の時」

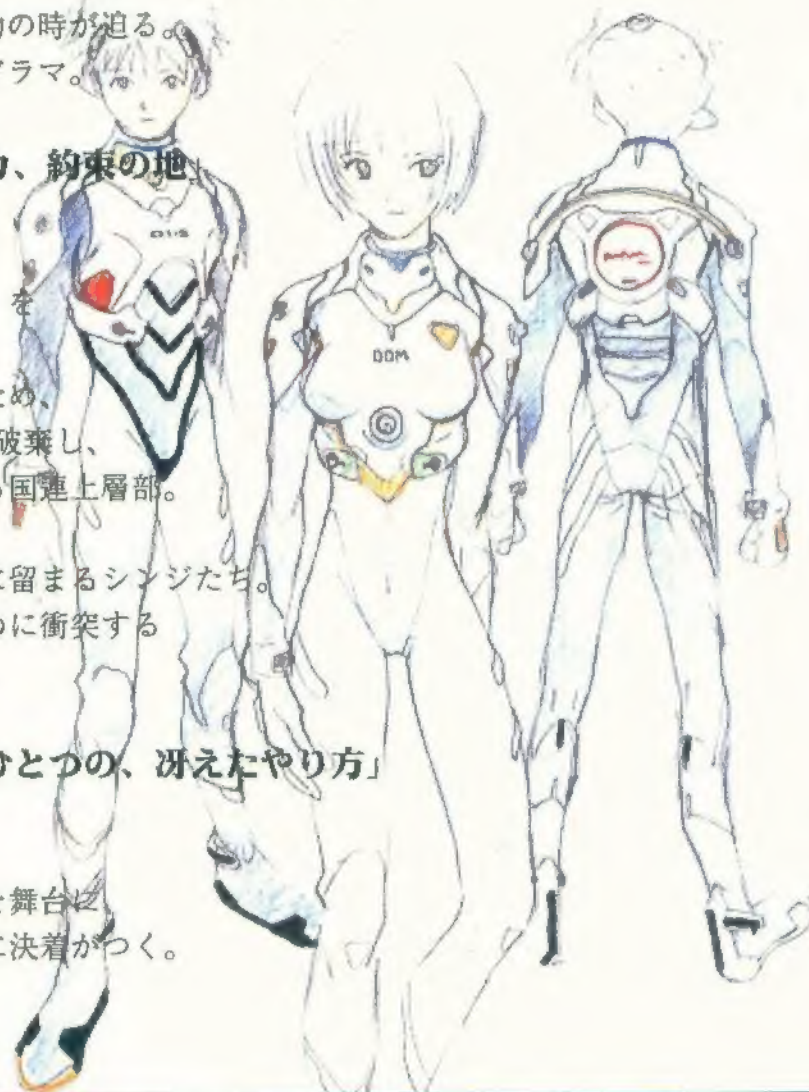
倒れるレイ。
明かされる彼女の秘密。
ついに目覚め、月より飛来する最強の12使徒。
米大陸ごと蒸発してしまうエヴァ6号機。
その圧倒的な力の前に、無力を自覚する人類。
人が無に還る、契約の時が迫る。
絶望の中での人間ドラマ。

第25話「アルカ、約束の地」

キーとなっている
古代遺跡「アルカ」を
擁する研究所。
12使徒を止めるため、
「人類補完計画」を破棄し、
その破壊を決意する国連上層部。
反対する父親。
レイのため研究所に留まるシンジたち。
異なった目的のために衝突する
人間たちのドラマ。

最終話「たったひとつの、冴えたやり方」

終局である。
破壊された研究所を舞台に
全ての謎とドラマに決着がつく。
ラストは大団円。

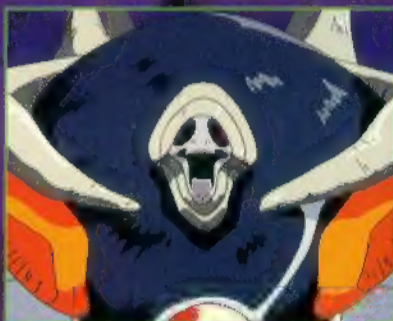


KEYWORD

第24話「契約の時」



本編でレイの秘密が明らかになるのは、第24話である。この回でレイ自らも「3人目」と口にしており、その出自を自覚していたようだ。



本編では第19話に登場した第14使徒（第3使徒から数えて12番目）のゼルエルが最強の使徒と謳われているが、最後の使徒ではない。



第23、24話は共に、本編の核心へと近づくエピソードが盛り込まれていた。第23話では人類補完計画やゲンドウの真意、第24話ではレイの秘密が明かされるとされている。また企画書では最後の使徒は第12使徒となっており、新約聖書ヨハネ黙示録における使徒の数と同一になっていたことがわかる。

KEYWORD

第25話「アルカ、約束の地」

企画書では、古代遺跡「アルカ」という存在が研究所（NERV本部）内にあることが判明する流れとなっているが、本編ではジオフロントが太古より存在していたことを示唆するのみで、その名称は直接的なセリフなどには出てこない。



旧劇場版ではレイがリスと融合することで人類補完計画が発動した。

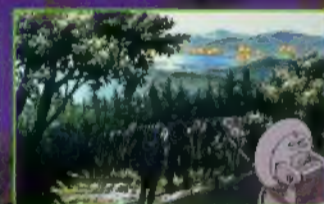
企画書では「レイのため研究所に留まる」とシンジの強い決意が記述されている。しかし、旧劇場版のシンジは、精神的に疲弊し尽くした結果、心を閉ざし流されるままで、本部内でうずくまるだけと、ネガティブな状態でクライマックスを迎えることとなる。



国連軍の攻撃によって露わになった球状体のジオフロント外殻部。画面上では「LILITH'S EGG（リスの卵）」と表示されている。企画書の文脈からすると、当初は本部の遺跡自体が人類補完計画発動のキーとなっているように想定されていたようだ。

KEYWORD

破壊を決意する国連上層部



ゼーレの命令でNERV本部接収を試みる戦い。企画書に沿った展開。

旧劇場版に登場したEVA量産機。ゼーレの命を受け、NERV本部を急襲する。



9体のEVAシリーズと凄絶な死闘を繰り広げる三号機。本編における最強の使徒とは、人間が造り送り込んだ、この量産機であったともいえる。

企画書の第25話、最終話の構成は、旧劇場版へとつながっている。ゲンドウの意志に反し「(研究所)破壊を決意する国連上層部」や「破壊された研究所を舞台に」などは旧劇場版でも印象に残るシーンである。また「異なった目的のために衝突」という文言は、キールとゲンドウの対立やリツコの造反などを想起させる。

KEYWORD

最終話「たったひとつの、冴えたやり方」



第24話、苦悩するシンジ。TV版のラスト2話は、シンジを中心に各キャラクターの内面世界をビジュアル化する手法が用いられた。

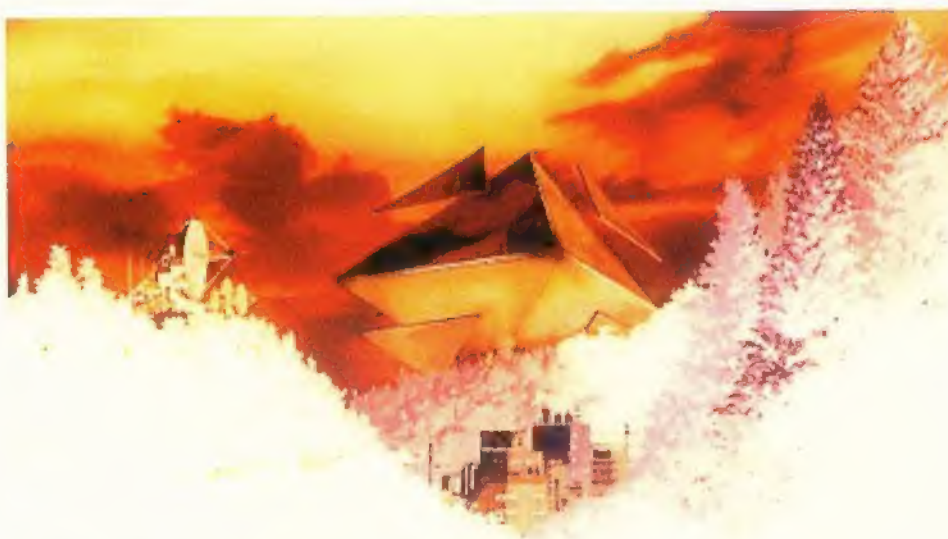
旧劇場版でのラストシーン。生き残ったシンジとアスカだが……。衝撃的なシンジの表情が印象深い。



TV版最終話は、OPのラスト同様シンジの満面の笑顔で幕を閉じる。また、レギュラーメンバーの祝福も。表面上は企画書通りの「大団円」と取れなくもないが、その内実は言葉通りとは言いがたい。

TV版最終話、旧劇場版（第26話）のサブタイトルは、どちらも古典的なSF小説やSF映画のタイトルからの引用となっているが、企画書最終話のサブタイトルも同様に命名されていることにも注目したい。ただし、どちらも全ての謎に決着がついたといえる内容とは言い難く、大団円のラストとはなっていない。

イメージボードによる ビジュアル的な見せ場



使徒・ラミエル（雷の天使）

全長300メートルの巨体を宙に浮かせて、第3新東京市上空に侵入してくる。

最大の武器は、射程距離20キロを誇る、全方位陽電子ライフル。

その威力は、一発でエヴァの装甲を貫通する。ちなみに、これはネガフィルム。



出撃準備中の エヴァ初号機

操縦者はこのコックピットシリンダーの奥から操縦席へ乗り込む。格納庫でのエヴァは暴走を押さえるために、両肩の大型パイロンを板状のガントリーが、前後から挟み込む形で拘束されている。

KEYWORD

ビジュアル的な見せ場

企画書29ページでは、イメージボードと共にエヴァにおける映像面での見どころや独自性について記述されている。ただし、本編で初号機が見せる猟奇的な活躍などについては、言及されていない。



透過光とストロボ効果を組み合わせたA.T.フィールドの表現。本作を代表する特殊効果のひとつ。これもビジュアル面の見せ場と言える。



OPより。巨大な初号機の足下にしたたり落ちる赤い体液。特撮的な巨大感と得も言われぬ猟奇感が共存しているのも実は本作の映像的な特色である。

OPに登場する揺らめく真っ赤な陽炎の向こうに見える初号機のドス黒いシルエット。既存のロボットアニメーションの主役メカとは異なる邪悪なモンスターのような禍々しい雰囲気が漂う。



KEYWORD

使徒ラミエル(雷の天使)



第5話でのラミエルの放つ加粒子砲によって、胸部装甲を一撃で撃ち抜かれる初号機。企画書におけるラミエルの説明でも、「その威力は、一発でエヴァの装甲を貫通する」とされている。

敵となる謎の生命体＝使徒についても、いくつか紹介されている。ここで最初に登場しているのは、本編において第5使徒として出現するラミエルである。ラミエルに限らず、本編では明らかにはされていない使徒の名前の意味が、企画書には記されているので興味深い。



ポジトロンスナイパーライフルの斉射攻撃でボディを撃破されるラミエル。ラミエルは本編でも強敵として描かれた。



正多面体という非生物的なデザイン。ラミエルは従来の敵モンスター(もしくは敵メカニック)のイメージを覆す秀逸かつ鮮烈なイメージ。武器となる陽電子ビームは加粒子砲に変更されているが、長い射程や威力は企画書通りのものとなっている。



本編におけるラミエルの装備は、加粒子砲だけではない。ラミエルのボディ下部からは、垂直に伸びるドリル状の物体が突出する。

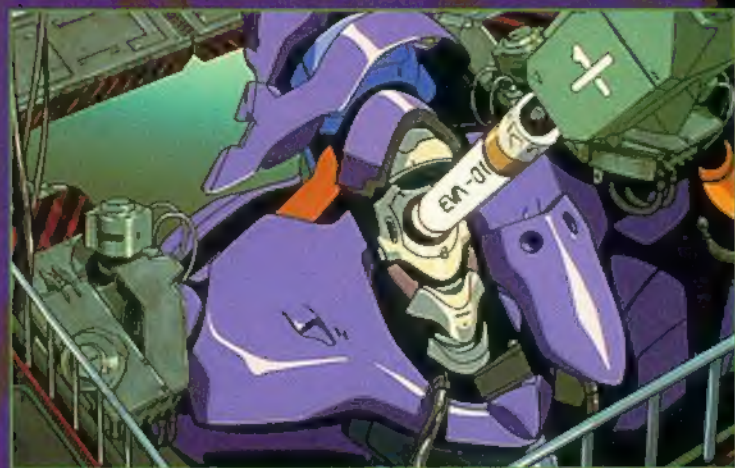


企画書では使徒の異形表現として用いられているネガ画面。サキエルが登場した第5話では、ネガ画面でシンジのショックが表現された。

KEYWORD

出撃準備中のエヴァ初号機

EVAの操縦席は、人間の脊髄に相当する箇所に設置されている。この配置に関しては、企画書段階から決定していたようだ。ただし、まだエントリープラグという名称は用いられていない。



エントリープラグを挿入される初号機。イメージボードでも、出撃直前までEVAは拘束されているようだ。



ケージに拘束中の初号機。ほぼ企画書通りだが、本編では溶液漬けとされている。



EVAのダメージは、神経接続されているためパイロットにもフィードバック。演出的ではなく設定的にロボットのダメージを操縦者も同時に受けるという作品は、以前からあったが、エヴァにおける言葉の選択や使用法はSF小説のような科学的説得力を感じさせる。

エントリープラグ挿入のアップ。企画書では「コックピットシリンダー」と呼ばれているエントリープラグであるが、脊髄に組み込むような形でコックピットが存在するというコンセプト自体は、イメージボードと同様である。